

令和6年度 第5回施設長会 会議資料

(川崎市社会福祉協議会 施設部会 老人福祉施設協議会)

— 議 題 —

1 各プロジェクト委員会の進捗状況等について … 資料1

- (1) 災害プロジェクト委員会について
- (2) 人材プロジェクト委員会について

2 施設長会情報交換テーマについて … 資料2

3 神奈川県社会福祉協議会施設部会老人福祉施設協議会 … 資料3

- (1) 第22回かながわ高齢者福祉研究大会について
- (2) 高齢者福祉施設 PR 委員会について

4 第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会について … 資料4

5 公益社団法人全国老人福祉施設協議会 … 資料5

6 その他 … 資料6

- ・川崎市総合研修センター
- ・川崎市福祉人材バンク

各プロジェクト委員会の進捗状況について

1 災害プロジェクト委員会・防災班長会議

(1) 第4回災害プロジェクト委員会・防災班長会議 / 11月6日(水) 10時～11時

«協議概要»

① 令和6年度 E-Welfiss 及び防災無線機を活用した情報伝達訓練について

1 目的

発災時に市及び各区と各所管施設等との連絡体制を確保するため、複数のツールを使用した情報伝達を模擬体験することにより、災害発生時の対応力向上を図るとともに、E-Welfiss 及び防災無線機の操作習熟度を向上させる。

2 実施概要

(1) 実施日：令和6年11月22日(金) 13時10分～15時00分

(2) 実施場所：各施設等、各所属、本庁舎会議室（災害福祉調整本部）

(3) 参加対象：市役所関連〔災害福祉調整本部（長寿社会部・障害保健福祉部・地域包括ケア推進室）、リハビリテーションセンター（南部・中部・北部）、各区役所支所 高齢・障害課（保健衛生・福祉班）〕

高齢者施設〔特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホームの一部、サービス付き高齢者向け住宅の一部、高齢者向けグループホームの一部〕

障害者施設〔障害者支援施設、医療型障害児入所施設、短期入所施設〕
救護施設

地域包括支援センター

基幹相談支援センター

関係機関等〔川崎市社会福祉協議会、川崎市老人福祉施設事業協会、川崎市障害福祉施設事業協会〕

(4) 使用ツール：E-Welfiss、防災無線機（MCA無線）

※防災無線機が未設置または繋がらない場合は電話や E-Welfiss を使用

(5) 想定災害：令和6年11月20日(水) 8時30分発生

川崎市直下地震（最大震度6強）

(6) 訓練内容：川崎市直下地震（最大震度6強）の発生を想定し、市及び各区と各施設等との連絡体制を確保し、各施設等からの被害状況報告を受け、被害内容の確認等を実施する。

② 施設間連携強化の取組み(9/18)の報告

別紙報告書について説明。

- ・ 横浜市の情報共有システムを見ることができたのは良かった。パッと見は川崎市の E-Welfiss の方が見やすさはあったが、道路状況等についても情報をあげられるという点では横浜市のシステムが優れているように感じた。横浜市のシステムの良い部分は積極的に導入していくよう行政に改善案を提出できたら。
- ・ 初めての顔合わせとしては良かった。グループワークについては何について話し合えるかを検討する必要がある。ただの情報共有に留めるのではなく、目的を持った、共通の課題を土台とした話し合いを重ねていきたい。
- ・ 横浜市と川崎市という大きな規模感ではなく、もう少し小さいエリア、隣接している区と連携するきっかけにできたらと思う。
- ・ 横浜市と川崎市が先駆けとなって連携強化を図ることで、県域にまで連携の輪を広げることができたら良い。

③ 災害対応に関する研修会（10/29）について

別紙報告書について説明。

- ・ 机上訓練は非常に有意義だった。グループワークでの議論まではいきつかなかったが、自施設の BCP の精度の甘さを痛感した。今一度付け足す必要のある部分が多々見つかったので参考になった。BCP の精度を高めるための研修は色々あるが、全てを取り入れていくというより、まずはできることからやっていくことの大切さを改めて感じた。
- ・ 研修訓練の実施イメージを掴むことができた。既存の研修に含めながら訓練に関する年間計画をたてていけることが分かった。グループワークの時間が足らなかったが、他施設の状況について意見交換ができたのも良かった。ただやはりもう少し時間をとって、それぞれの施設の状況や取り組みについて知ることができるとなお良かった。こうした研修を受けると、見直さないと、という気持ちになるので、多少内容を変えながらも年 1 回は災害に関する研修を実施することが必要。
- ・ BCP 訓練を大事に捉えていたが、机上訓練の演習を通して訓練のハードルが下がった。一方で訓練を実施するにあたって、自身の理解をより一層深める必要があることに気づかされた。グループワークの時間は少なかったが、他施設の参集条件や連絡手段について具体的に聞くことができた。また、被災した施設の災害時対応の話を聴くことができたのもためになった。
- ・ BCP の施設内での周知方法についても知ることができた。こうした研修は BCP の見直しのきっかけになる。多くの職員に BCP について知ってもらい、関心を持ってもらうことの大切さを改めて感じた。
- ・ 防災に関する情報交換の場が必要だと感じた。色々な情報収集をしたいがどうすれば分からないと感じている方もいると思うので、定期的にこうした場があると良い。

④ 各班の訓練等取組み状況について

川崎：10月9日に第5回目情報伝達・物資移送訓練を実施。被災想定施設は大師の里。

E-Welfiss のスレッドが本来1つのはずが3つ立ち上がってしまった。どこのスレッドに情報をあげて行けば良いのかゴチャゴチャになった。スレッドは被災した施設が発信して、そこに他施設が情報をあげていく形にすることにした。また、もう少し細かく情報をあげていくことが、協力施設職員の安否確認にも繋がるのではないかという話になった。

次回は1月9日で、被災想定施設は境町フェニックス。

幸：10月24日（木）10時から第2回幸班会議を実施。また、E-Welfiss を用いた情報伝達訓練及び南さいわいを被災想定施設とした支援物資移送訓練を行った。災害時支援物資受入記録／受取票（案）を試行したのだが、予め記入できるところは記入しておくという意見や欄外に「物資輸送の際にはこの用紙を用意し、一緒に持って行くこと」や「持参する物資には施設名を記入すること」等を記載しても良いのではないかと、という意見が出された。E-Welfiss の操作方法や使い勝手については、複数施設が支援要請を出した時に、その返信をどの施設に対して出しているのか分かりづらいので SOS 画面から返信が出来た方がよいという意見、物資が充足するなど支援要請の内容を変更すると、その変遷は更新履歴に入れられるが、非常に分かりづらい場所にあるので、優先度の低いタブを後ろに回した方が良いのではないかと、という意見、そもそも普段使っていない PC やタブレットからだて E-Welfiss に入りづらく、検索しても川崎市の HP が出てくるだけで URL をベタ打ちしないと入れないので、川崎市の HP の見やすい場所にアドレスを貼り付けたりバナーを用意したりしてほしいという意見、また消防関連で使っている地図は道路事情がリアルタイムで反映されると消防関係者から聞いたことがあるので、そうしたものも取り入れて見やすい地図にしてほしいといった意見が出された。また、有事の際のすみやかな連絡手段として、同意のもとライングループを作成した。次回は3月頃を予定。

中原：10月中に情報伝達・物資移送訓練を実施予定だったが、日程の調整がつかず、12月上旬に訓練を実施することになった。被災想定施設は等々力。中原区は新しい施設長が多く、それぞれの施設の場所・状況・規模などを全員が把握できていないので、物資移送訓練を通じて把握できるようにしていきたいと考えている。

高津：11月に訓練実施予定だったが、調整が進んでいない状況。これまではこういう訓練をしようとしていたのだが、1度、高津班で集まってどういう訓練をしてほしいか意見を募り、それを集約してから訓練を組み立てていくことにした。

宮前：3カ月に1回、15日に訓練を実施しようということで、11月15日に E-Welfiss のみの訓練を実施する予定。

多摩：10月7日に応援職員受入訓練を、ヴィラージュ川崎を被災想定施設として実施。当日はしゅくがわら三清荘が事情により欠席となったが、基本的に多摩班全体で訓練に臨む流れになっている。よみうりランド花ハウスと生田広場からヴィラージュ川崎に応援職員を派遣。

実際に応援職員 1 名につき 2 名の利用者への排泄介助を実施した。

年 4 回の活動で、次回は 1 月に応援職員受入訓練を、今回の反省を活かした形で実施する予定。次年度は、物資移送訓練、水リレー訓練、応援職員受入訓練を順々にできたらと考えている。毎回訓練後に班会議を実施したい。

麻生：今年、2 月・6 月・9 月と訓練出来なかったので、次回 2 月こそは訓練を実施したい。これまで参加できていない施設への声かけに工夫したい。

（２）今後の予定

第 5 回災害プロジェクト委員会・防災班長会議 / 1 月 2 1 日（火）1 4 時～

令和6年度 高齢福祉部会 災害対策プロジェクト

川崎市・横浜市 情報交換会 報告書

令和6年9月18日(水)15:00~16:40

場所:横浜市健康福祉総合センター 8階 大会議室8F

参加者:名簿のとおり

1. 自己紹介

名簿順に挨拶をした。

2. 各市での取組報告

◆横浜市

福祉避難所情報共有システム内の紹介を行った。

・第1回福祉避難所情報共有システム訓練の結果報告

種別を越えた横のつながりを作っていくため、障害福祉部会とも一緒に訓練をするようになった。(R6年2月から)
災害時優先携帯電話の活用訓練も同時に行っている。

◆川崎市

災害時高齢者・障害者施設等情報共有システム(E-Welfiss)の紹介を行った。

- ・2019年の台風19号の後、老人福祉施設事業協会より川崎市に、発災時に備えて情報共有システムが必要であると要望書を出し、作成してもらった。(たきがしら芭蕉苑に見学に行った)
- ・年1回、川崎市総合防災訓練における二次避難所立ち上げ訓練を実施。
- ・年2回、情報伝達訓練としてE-Welfiss及び防災無線機を触る訓練を実施。(行政主導)

《質疑応答》

○システム内のスレッドは誰が立てるのか。

→行政が立てる。現在のスレッドは訓練用のため、実際はどのようなようになるか分からない。

○スマホで閲覧は可能なのか。

→可能。スマホやタブレット端末に対応済み。

【ブロック、区単位の動き】

- ・川崎市はピラミッド式の組織となっており、各班の代表が集まって防災班長会議を実施している。市内7区あり、区が班となっている。(各班10施設前後)
- ・区の班長(区によっては副班長も)が、災害プロジェクトメンバーも兼ねている。
- ・物資移送訓練は各班でシステムを使用して実施しており、顔の見える関係づくりになっている。
- ・自助の強化を目的に、BCP研修を企画している。
- ・川崎市多摩区では人的フォロー訓練を10月に実施予定。河川付近にある施設が被災した際に、山側にある施設がフォローする(排泄介助)という想定で行う。困ったことやどんな情報が必要かを洗い出す。
訓練を実施する際に保険に関することが課題となっていた。①労災 ②賠償の2パターンにわけて考えているが、保険代理店に確認したところ、出向先と出向元で考えることになるが、①労災は出向元が対象となり、

②賠償は出向職員に対しても応援を受けた施設(出向先)の保険が適応とのことで、訓練が実施できることになった。実施時間は15分～30分を想定。

2名の応援者が2名ずつの排泄介助を実施する内容となっている。

・水リレー訓練…近隣施設に水を届ける。顔合わせや、施設周辺の環境を確認するために実施している。

《質疑応答》

○実施を嫌がる施設はないのか

→交流があったからこそ仲が深まって実施ができているのではないかと思います。

○区ごとの温度差はあるか

→あり。新しい施設は協力的ではないところもある。

○区役所は関わってくれているか。

→区が主催をしている。

○将来的に考えていることは。

→訓練を定期的に開催し、より多くの職員がシステムを使えるようになってほしいと思っている。物資、水を送る訓練については、とてもいい訓練だが、負担に感じてしまう施設もあるのが現状。

3. 水害、土砂の立地別に分かれて GW

グループ1(水害・内水・川沿いの施設)

横浜市: 泉の郷 紺野氏、たきがしら芭蕉苑 前田氏、サンバレー 和田氏、ビオラ市ヶ尾 加賀妻氏、

横浜市社協 黒川氏

川崎市: ビオラ川崎 見原氏、幸風苑 寺下氏、ひらまの里 佐藤、生田まほろば 山口氏、菅の里 藤谷氏、

川崎市老人福祉施設事業協会 吉田氏

・青葉区内、鶴見川沿いの施設。1時間に300mmで内水が氾濫し、鶴見川の浸水もある。2階、3階は特養のため、水害の場合は1階にある自施設は閉館できるが、1階が浸水するとシステムがダメになってしまう。本部のサーバーもダメになる可能性もある。遊水地を作ったことで氾濫も起こらないと思っているが、川の水位が上がると、様々なものが上流から流れてくる。

・大雨が降ると、周辺道路の排水が溢れて、建物内の排水もうまういなくなるため、排水溝に物がたまっていないかは定期的に確認するようにしている。大雨の際、マンホールは外れないが、小さな排水の蓋が外れてしまうことがあるため、行政には伝えている。

・地下室に機械室があるため、地下に水が入ってしまうので、備蓄等は2階以上に置くようにしている。以前、浸水した際に、書類、車は全滅した。多摩川と鶴見川にはさまれている幸区の施設のため、水害の際に車をどこに移動させるかが課題となっている。

・地震の際の土地の液状化を心配している。また排水についても課題。

・東京からの三沢川が施設の後ろにある。台風19号の際に、多摩川優先で三沢川を止めると言われ、備蓄もPC等も2階へ移動した経験あり。

・施設4階に厨房があるため、1階が水害によって被災しても厨房機能は生きていた。

・車を逃がすために、車を移動させる場所(高台)は決めている。デスクトップは廃止し、すべてラップトップに変更。垂直避難させる「物」をリストアップしている。金庫の中身も移動させる必要があるが、日常的には触ること

ができる人を限定しているため、課題となっている。

- ・台風の際に、本来利用予定でなかった人がSSを使いたいと申し出があったが、危険な場所に職員を向かわせる訳にもいかず、結局施設長が向かった。他の施設ならばどう判断するかお聞きしたい。
- －風水害は事前に分かるため、時間的な猶予はあり、予測できる部分もあると思う。職員に送迎はお願いできないため、施設長が行った。
- －非常時に職員にお願いはできない。160年ぶりの大雪が降った時等も施設長が動いたことを思い出した。
- －大雪の際は、防災担当の職員と2手に分かれて、職員を送迎した。
- ・施設長が休みだった時にどうするのか、また地域住民の方の避難など、考え及んでいなかった部分があった。皆さんの話を聞いて、気づけたところがある。
- ・通所事業やケアプラザが閉館すると、食べるものに困る利用者もいる。そこにケアプラザの職員は電話して、安否確認をしている。

グループ2(土砂災害施設)

横浜市: よつば苑 碓井氏、ラポール三ツ沢 松川氏、仏向地域ケアプラザ 森氏、てるてる園 橋本氏、グリーンライフ 国生氏、横浜市社協 中原氏

川崎市: 潮見合みどりの丘 佐藤氏、和楽館 登坂氏、わらく桃の丘 稲垣氏

川崎市社協 鈴木氏

●各区や施設の課題について

- ・施設の土地は、土砂災害警戒区域にかかっているが、入るまでの道が被災区域に指定されている。これまで対策はしていなかったため、監査が入ったときに指摘があった。建物に被害はないだろうが、動こうとする時に災害状況によっては動けない(外から施設に入ってきたり施設から外に出ていったりができない)ということがわかった。現在はどこかに避難するということは想定していない。
- ・お話をきいて、自施設は災害警戒区域に入っているかどうかについては意識するが、施設周辺まで考えていなかったため参考になった。
- ・山の上にあるため、施設自体の土砂災害はないと想定しているが、実際にどうするか…。近隣施設(和楽館)があるため、相互応援ができるよう話をしている。
- ・川崎市は、市から土砂災害避難計画を立てるよう指示があった。自施設にいた方が安全ではないかと予想しているが、市に確認した際にも、計画を立てるというより、そのような状況だということを報告してほしいと言われている。
- ・川崎市市内全体で規約を作成しており、各区協定を結んでいる。
- ・実際は、相互応援は難しいのではないかと話はしており、まずは状況を知っていればいいのかなどと言っている。
- ・先日の台風の際に、行政主導での安否確認が初めてきた。
- ・(横浜市)福祉避難所の件で区に問い合わせをしても、たらい回しにあう。どこが管轄なのか区も分かっていないのではないかと感じる。
- ・川崎市は区ごとに訓練を実施しているとのことだが、誰が仕切りをとって実施しているのか。
→区ごとに班長と副班長がおり、両方で話し合いをし、仕切っている。川崎市は、プロジェクトメンバーが区の

班長・副班長を兼ねている。

- ・横浜市の場合、県外法人が市内に多く参入しているため、そもそも県外法人が横浜市社協会員になっていない現状がある。昔からある施設は協力的であるが、新施設はなかなか協力が難しいという課題感がある。
- ・川崎市では、新施設に協力してもらえない課題点についてどうすればいいかと検討した結果、水リレー訓練を実施することとした。結果、水リレー訓練においてもなかなか協力を得られなかった。強制力がないため、どう重い腰をあげてもらうのが1番の課題である。
- ・川崎市の老人福祉施設事業協会と施設長会の関係は？
 - 施設長会の運営を、老人福祉施設事業協会と市社協とで共催している。老人福祉施設事業協会の理事会は、市内社会福祉法人の理事長により構成されているおり、何か市に要望がある場合には、老人福祉施設事業協会から行うというカタチ。
- ・横浜市旭区では、区と消防と施設とで大掛かりな訓練を実施していた。今月も実施する予定。施設長会の年に数回実施している。区によって、ブロックによってかなり異なると思う。
- ・三ツ沢は近隣に3施設があるが、今は周りの施設状況も何も知らないなど改めて実感した。できることを考えていきたい。

◆西山部会長からのご挨拶

各地大きな災害起こった際、施設長の方々もその時の判断が正しかったかはその場ではわからなかった。後になってその時の判断が良かったのかどうかはわかると言っていた。

訓練も重要・必要ではあるが、何かあった時に、どんな判断をするかを決めておく必要がある。

その場その場の「判断」が大事になっていくと思う。

令和6年度 老人福祉施設協議会研修会 報告書

1 開催日時

令和6年10月29日（火）午後2時から午後4時30分まで

2 会 場

川崎市総合福祉センター（エポックなかはら） 7階 大会議室

3 参加者

- （1）老人福祉施設協議会 20名
- （2）保育協議会 2名
- （3）障害者福祉施設協議会 2名

4 内 容

テーマ：BCP訓練の手法と実践

講 師：MS&ADインターリスク総研株式会社 西川 耀 氏

5 タイムスケジュール

開 会	14:00～14:05	
	挨拶：災害プロジェクト委員会・防災班長会議	山口委員長（議長）
講 義	14:05～14:40	
	・令和6年度義務化のポイント	
	・BCPの研修・訓練のポイント	
演 習	14:40～16:10	
	・BCP机上訓練 テーマ①「水害」	
	・BCP机上訓練 テーマ②「地震」	
振り返り	16:10～16:15	
質疑応答	16:15～16:20	
閉 会	16:20～	
	挨拶：災害プロジェクト委員会・防災班長会議	稲垣副委員長（副議長）

6 アンケート結果（回収：21[回収率：87.5%]）

（1） 理解度

とてもよく 理解できた	理解できた	普通	やや理解 できない	理解できない
9	12	0	0	0

(2) 満足度

大変満足した	満足した	普通	やや不満足	不満足
10	11	0	0	0

(3) 本日の研修についてのご意見及びご感想をご記入ください。

- ・ 訓練をどうやれば良いかイメージができた。自施設なりに有効なやり方を工夫したい。
- ・ BCPの訓練の手法と実践について、自施設の対応について考えさせられるところが多かった。自施設でも机上訓練を反復していこうと思いました。
- ・ BCP机上訓練演習の中で、自施設BCP検討したいポイントが多々ありました。ありがとうございました。
- ・ 3年前にBCPを作成したが、そのままになっている。いかにして見直し、訓練を実施していくことが重要なことか理解できました。具体的な方法を学んだので実践してきたいと思いました。次回があれば是非また参加したい。
- ・ 分かりやすい研修でとても参考になりました。研修・訓練の区別について悩むところでしたが、随分と整理できました。ありがとうございました。
- ・ 訓練に対して具体的な取組みのイメージがもてました。自施設のBCPを見る機会となり、情報が古いことに気づきました。ありがとうございました。
- ・ 2時間だと短い。グループワークも時間が不足。できれば半日ではなく、1日研修が良かったです。
- ・ 実際に作成したBCPでは足りない事・部分が多く、改めて作り直す必要を感じた。
- ・ BCPではマニュアルを作っただけでは意味がなく、実際にグループでイメージして考えたり、災害が起きたことを想定して訓練をやってみる、それを元に改善すべき点を新たに考え直すことが、いつ起こるか分からない自然災害への対策になるのだと今回の研修を受け感じました。ありがとうございました。
- ・ 今後訓練を毎年2回行っていくうえで、テーマが同じものになってしまいそうだったのですが、様々なテーマを提案していただけたので今後活用していきたい。
- ・ どのように施設内で研修すれば良いか悩んでいたのもとても参考になりました。初心者Lv.からすすめていく必要性も知ることができました。一気にたくさん盛り込むことを考えてしまっていたので、今回の研修で気持ちが楽になりました。
- ・ 机上訓練（いろいろなシチュエーションを想定して）はやるだけ有効だと感じました。想定外の事象が全国・世界で起きており、また重複災害（地震＋感染症、風水害など）対応できないことが多いですね。

- ・当施設ではまだ研修、訓練が行えていなかったため、今回具体的に教えていただき訓練イメージが明確になりました。今後も同様の研修を年1回はやってもらいたい。
- ・他施設の取組みをもっと聞く時間が欲しかった。参考になることが多いと思います。
- ・ワーク中心の研修だったので、とても実践に役立てることができた。BCP研修（訓練）を行っていくうえで、どのように行ったら良いか分からなかったのだが、今回の研修で手法を学ぶことができた。
- ・“BCP”は作成したものの実際に災害時を想定した今回の研修はとても学ぶことが多く勉強になりました。とてもわかりやすい内容で是非活かしていきたいと思いました。
- ・講師の方のお話を一方的に聞くだけではなく、他の施設の方々との交流も出来た机上ワークがとても良かったと思います。日々の業務に追われるだけで、なかなか施設で研修等が出来ませんが、少しずつ進めていきたいと思いました。
- ・自施設での訓練のイメージができました。
- ・研修の実施方法が具体的で非常に分かりやすかった。また、視点を変える事で様々な方法がある事も理解できた。自施設BCPの不十分さを実感する事もできた。
- ・“BCP”は作成してあるものの実態に合わないものなのだと気づくことができました。誰でも行動できるように、より具体的である必要性も感じました。
- ・グループワークの時間がやはりもう少しほしかった。

（４） 本日の研修についてのご意見及びご感想をご記入ください。

- ・災害をテーマとした研修は非常に大切なテーマです。色々なテーマで研修を開催していただきたいです。
- ・具体的なBCPを実際に実施した施設の話を知りたい。
- ・加算要件を満たす具体的な方法（経口維持加算、協力医療機関連携加算など）
- ・マニュアルのチャートシートが予めあれば入力するだけで都度作成し直すだけで済むかな。そんな簡易なシート作りを教えてほしいかな。
- ・災害が多い時代なので、継続してこのような実践研修をコンスタントに取り入れてほしい。
- ・災害時の対応、訓練について
- ・内容が盛り沢山で時間が足りなかったと思うので、少しテーマを分けた研修会を行ってほしいです。（Ex.台風の時、地震の時など）
- ・リアルな被災した施設の話を知りたいです。
- ・安否確認のツールやより具体的な研修・訓練の情報交換の場がほしいと感じた。ありがとうございました。
- ・一定の時間の情報交換会のみでも面白いと思います。

2 人材プロジェクト委員会

(1) ハローワーク「福祉の仕事」説明会 / 11月12日(火) 13時30分～

会 場：①ハローワーク川崎

②福祉パルみやまえ

参加施設：1施設（社会福祉法人寿楽園）

参 加 者：①説明会13名（就職相談会12名）

②説明会14名（就職相談会12名）

(1) 川崎市社会福祉協議会（老人福祉施設協議会）について

福祉の仕事・資格の案内

(2) 施設でのケアの実際

講師：人材プロジェクト委員会 伊藤施設長

(3) 福祉の現場からの声

司会：人材プロジェクト委員会 伊藤施設長

「参考」今年度の福祉の仕事説明会

日程	委員（南）	委員（北）
5/17（金）	<u>すみよし 和田施設長（講話①）</u> ※ハローワーク川崎	<u>等々力 岩壁施設長（司会）</u> ※福祉パルなかはら
7/19（金）	※ハローワーク川崎	<u>すえなが 平山施設長（講話①・司会）</u> ※福祉パルたかつ
9/13（金）	<u>大師の里 古敷谷施設長（講話①・司会）</u> ※ハローワーク川崎	※エポックなかはら
11/12（火）	<u>しおん 伊藤施設長（司会）</u> ※ハローワーク川崎	※福祉パルみやまえ
1/17（金）	※ハローワーク川崎	<u>多摩川の里 茶園施設長（司会）</u> ※福祉パルたま
3/14（金）	※ハローワーク川崎	<u>金井原苑 吉野施設長（司会）</u> ※福祉パルあさお

(2) 地元で活躍する企業との交流会 / 11月27日(水) 14時～

主 催：かわさき若者サポートステーション／コネクションズかわさき

参加施設：特別養護老人ホーム新緑の郷 小林施設長

参加者数：14名

■企業説明会（１４時５分から各１５分）

- １．生活協同組合パルシステム神奈川
- ２．日東亜鉛株式会社
- ３．特別養護老人ホーム新緑の郷
- ４．株式会社シティコミュニケーションズ



■４グループに分かれての企業との交流会

（３）第４回人材プロジェクト委員会　／　１２月３日（火）１５時～１６時３０分

≪協議概要≫

①ハローワーク「福祉の仕事」説明会について

- １）前述１１月１２日の実施内容の報告
- ２）次年度以降のハローワークへの協力・関わり方について
 - ・介護の仕事の説明や現場職員からの声から座談会、就職相談会にいく流れは良いと感じる。始めた頃よりも多くの方が就職相談会に残っているイメージがある。
 - ・ある程度の手応えはあるので、継続して協力していくので良いが、継続的な実施のためにもハローワークや人材バンクには関わり方を検討してもらう必要があるかもしれない。
 - ・障害分野で働きたいという求職者も増えている印象なので、高齢施設だけではなく障害施設の方に話してもらう機会があっても良いかもしれない。
 - ・座談会が盛り上がっているのに途中で切られてしまうことがある。もう少し時間をのばしても良いと思う。例えば、現場からの声と座談会の内容が重複しているように感じるので、現場からの声をなくして座談会の時間に充てる等があっても良いかと思う。
- ３）介護福祉のお仕事就職相談会の日程が被っていたことについて
 - ・１１月１２日に実施したハローワーク「福祉の仕事」説明会と同日開催でシグマスタッフ主催の「介護福祉のお仕事就職相談会」があった。せっかく介護・福祉人材確保のために

開催しているのに日程が重複してはもったいない。開催日程をずらす等して、切れ目ない人材確保の取り組みをした方が良いのではないか。人材プロジェクトとしては年度初めの施設長会で年間予定を出しているの、そうしたものを参考にしてもらいたい。

②地元で活躍する企業との交流会（11/27）について

1) 前述 11月27日の実施内容の報告

2) 感想・振り返り

- ・ 4グループいずれも介護や福祉の仕事に興味のある方が1～2名いた。
- ・ 学生時代にアルバイトやボランティアとして福祉の仕事に関わったことのある方が複数いた。
- ・ 身内が介護の仕事をしていて大変そう（一時的に休職し、復職後は日勤のみのシフトに変更）と言われた方は、福祉の仕事全般へのネガティブなイメージがあった。
- ・ 給与面（かなり安いと思われていた様子）や職員の男女比（女性が圧倒的多数だと思っていた様子）に驚かれていた。
- ・ 若者サポステから声をかけてもらえるなら次年度以降も継続的に参加していきたい。
- ・ 昨年参加後に、数名の参加者から施設見学の相談があった。居住地の近隣の施設を紹介するようにしているので、声がかかった際には協力してほしい。

③企業応援センターかわさきについて

1) 事業内容について

- ・ 川崎市内の企業に対する障害者雇用推進事業（川崎市委託事業）
⇒障害者雇用を考えている企業の方、すでに障害者を雇用している企業の方からの相談を受けています。障害者雇用を進めることで、新たな人材の確保につながるようにサポートします。
- ・ 川崎市障害者雇用促進ネットワーク会議の企画・運営
⇒川崎市が定期的開催するネットワーク会議の企画及び運営を行っています。市内の企業と障害者就労支援機関、行政が一体となって、障害者雇用という視点から、地域活性化のためのセミナーや情報の共有を図っている会議です。
- ・ 短時間雇用プロジェクトの運営
⇒事業の能率アップのために人手が欲しい企業と、短時間で働きたい障害等のある求職者とのマッチングを川崎市がお手伝いするプロジェクトです。
- ・ 就労体験の運営支援
⇒市内のスポーツチームや企業とコラボレーションし、就労を目指す障害等のある方がスポーツや文化的なイベントで就労を体験します。川崎市が包括連携協定を結んでいるNPO法人と、企業応援センターかわさきが共同で運営しています。

2) 障害者雇用について説明に来てもらうかどうかについて

- ・地元で活躍する企業との交流会に、川崎市経済労働局労働雇用部雇用担当職員が来ており、説明に伺うことができる旨、話があった。説明に来てもらうかどうか。
- ⇒事業協会の吉田局長が12月10日に会うため、その後判断する。

④人材確保・育成・定着に向けた今後の取り組みについて

1) 厚生労働省「介護人材確保に向けた取り組み」について

- ・介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を集計すると、2026年度時点で約240万人と算出されており、ますます必要は増している。
- ・国においては、①介護職員の処遇改善、②多様な人材の確保・育成、③離職防止・定着促進・生産性向上、④介護職の魅力向上、⑤外国人材の受入環境整備など、総合的な介護人材確保対策に取り組む。

2) 次年度の人材プロジェクト委員会の取り組み案

- ・田園調布学園大学など、近隣の福祉系大学のゼミや高校の福祉科をターゲットに出張講座的に福祉の仕事説明会ができると良いかもしれない。こちらから積極的に若い世代にアプローチする取り組みが必要。
- ・第2新卒へのアプローチの機会はないだろうか。入所した企業で疲弊した方が福祉分野に興味を持つことが多いように感じる。
- ・伝え方やアプローチの仕方は継続して検討していく必要がある。
- ・職員の一日をドラマ仕立てにしてみるのはいかがでしょうか。夜勤で毎回トラブルがあるわけではないし、夜勤明けに昼過ぎまで寝て、午後家事を片付けて、夜は友人と飲みに行く。次の日は朝からサーフィンに行ったり、キャンプに行ったり、まる一日趣味に充てられる。介護の仕事のイメージも変わるのでは？

(4) 今後の予定

第5回人材プロジェクト委員会 / 1月15日(水) 14時～

情報交換について

1 情報交換について

施設長会の際に、会員施設同士で情報交換、意見交換が出来る時間が限られており、平成30年度より施設長会と合わせて実施している。

老人福祉施設「協議会」という名のとおり、施設同士等で情報交換、意見交換が出来るテーマを設け、設定テーマに基づく30分程度（目安）の情報交換を実施します。

（1）会員施設から情報交換のテーマを募集

〔情報交換のテーマ例：看取りの実施方法、加算の取得状況、職員の雇用形態 等〕

（2）正副会長等会議において、会員施設から集約した情報交換テーマを確認し、施設長会での情報交換テーマを検討します。

（3）施設長会の開催通知に、情報交換の設定テーマを記載し各施設へ連絡。

各施設には必要に応じて資料等をご用意いただきます。

2 令和6年度第5回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：物価高騰・人材確保・人事管理等の対応で施設長として悩むこと

内 容：清水会長から後ほど説明

3 令和6年度第4回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：物価高騰に伴い事業者との関りで困っていること、不安に感じていること

内 容：給食業者からの値上げ交渉等

4 令和6年度第3回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：介護報酬改定を受けて取り組みが変化したことや新たに取り組むようになったこと

内 容：加算取得状況や夜間宿直の取り扱いの変化等について

5 令和6年度第2回施設長会の情報交換会のテーマについて

テーマ：経営政策研究ワーキングで協議した内容（人材育成）について

内 容：介護大学校、喀痰吸引研修等

6 令和6年度第1回施設長会の情報交換会のテーマについて

テ マ：介護保険法の改正と報酬改定により示された国の方向性に特養はどう取り組む必要があるのか

内 容：病院と特養の連携、介護福祉士養成の取り組み

話題提供：社会福祉法人照陽会 特別養護老人ホームみんなと暮らす町 広嶋施設長

7 過去の情報交換会テーマ一覧

【令和3年度】

6月16日	アフターコロナの施設運営について
8月25日	新型コロナウイルス感染症への対応について
10月20日	With コロナの施設運営について
12月15日	科学的介護情報システム「LIFE」について
動画配信	介護職員処遇改善支援補助金について

【令和4年度】

6月15日	施設におけるコロナ対応について～第6波終了の今、第7波に備えて～
8月25日	新型コロナウイルス第7波における各施設の課題、問題点、各施設との連携方法
10月19日	I C T機器の導入について
12月21日	【中間報告】第3回神奈川県特養実態調査（川崎市版）について
2月15日	施設運営における補助金の有効活用について～大規模修繕・コロナ対策など～

【令和5年度】

4月19日	災害について（各区の防災班長・副長について）
6月21日	新型コロナウイルス5類移行に伴う対応の変化について
8月23日	派遣職員と人材紹介事業所について
10月18日	派遣職員と人材紹介事業所について～part2～
12月20日	容態急変等による救急対応や看取りの現状について
2月21日	人材確保・災害対策・感染対策・事業所契約・利用者トラブル等、各施設で今年度一番対応に苦慮した事例について

第 2 回かながわ高齢者福祉研究大会 第 2 回実行委員会 報告

開催日時：令和 6 年 10 月 15 日（火）午前 10 時～12 時

■議題

1 第 1 回実行委員会検討内容振り返り

【大会運営】

1) アーカイブ構築

- ①資料は各ブロックで確認 ②アーカイブ用動画は各施設で撮影
- ③動画保存期間 ④アーカイブ視聴会費

2) 開催要項の検討（仕様確定）

- ①簡易プログラムと協賛企業広告チラシ、アンケートのみで良い
- ②アンケートは回収率を考え紙ベース継続
- ③アンケート回収率を上げるためにノベルティ

3) 受付業務委託の検討

- ①受付は QR コードリーダー
- ②チケット忘れ対応要員 1 人常駐
- ③受付完了後、順に資料一式取ってもらう

4) 各担当の必要係員数の検討

- ①受付 QR コードリーダーなら 2 名 ②介護技術発表は部門次第

【研究発表】

1) 表彰について

- ①優秀賞・アワードの創設は有り
- ②審査規程はこれまでのもので良い。しかしながら、審査員の基準合わせは必要
- ③審査員 3 名（A.養成校 B.施設長 C.中堅職員）
→（A.養成校 B.施設長 C.他の立場（行政、社協、新聞社…）

2) 研究発表の募集後のカテゴリー化

- ①テーマが広いので上がってきたところで振分
- ②海側エリアへの人の流れを作りたいのでメイン題目は海側へ

3) 事前説明会・発表内容ブラッシュアップ研修会の検討

- ①ブロック推薦の前に倫理的配慮や審査基準等を伝えられると良い
- ②説明会は Zoom でも良い。または動画。
- ③倫理的配慮については小田原・足柄地区福祉施設連絡会資料を参考にする
- ④ブラッシュアップ研修会は有り
- ⑤発表題数は 32 題とする

【介護技術発表】

1) 発表プログラムについて

- ①募集題数は最大16題とする。
(A.各ブロックから2題で8題 B.ブロックにとらわれず8題)
- ②発表時間は15～20分。研究発表の発表時間と合わせた方が良い。
- ③発表テーマは、従来の部門の他、ICT や生産性向上を加える。また、LIFE を活用した食事摂取量アップなど、2040年に向けて、ロボットやテクノロジーを駆使した介護技術発表とする。
- ④発表会場は、311と312に変更する。
- ⑤会場に持ち込めない備品や機材がある場合は、事前に施設でビデオ撮影し、当日流す。
(スクリーンのみ貸与)
- ⑥評価者は偏らないようにする。

【協賛出展】

1) 企業広告について

- ①企業側のメリットがないと協賛出展も広告も無い
- ②インスタ開設、企業広告、15秒動画
- ③発表の合間に会社PR 広告
- ④施設長と名刺交換
- ⑤競合避け種別に絞って募集

2) 料金設定について

- ①海側もエレベーター側も同じ料金にする。
- ②研究発表会場の真ん中のドアの行き来はなし。
- ③海側は人気のある発表テーマにする。
- ④海側に7ブース増やす(全部で35ブース)。

3) 次回までの宿題

- ①出展企業情報や大会冊子の金額など検討資料を事務局が用意
- ②企業のメリットを考えてくる

2 今後のスケジュールについて

日 時	内 容	備 考
10月15日(火)	第2回実行委員会	第1回実行委員会の検討を受けて、さらに詰めていく。開催要項・受付業務委託の検討、審査員や審査基準のすり合わせ、協賛企業メリット出し 等
12月25日(水)	第3回実行委員会	開催要項の確定。 各ブロックの状況確認、ホームページ及びアーカイブ構築の整理 等
3月中旬～下旬	各ブロック推薦締め切り	各ブロックに照会し、それぞれの推薦を集め全体の状況を確認する。

4月上旬	第4回実行委員会	発表内容によりカテゴリー化の整理、発表施設との調整事項整理、周知方法確定 等
4月中旬～下旬	事前説明会 発表内容ブラッシュアップ ^o 研修会	説明会、研修会の内容検討。講師調整。
4月中旬～5月中旬	参加申込受付期間 企業協賛受付期間	
4月下旬	第5回実行委員会	係員の役割及び人数割出、事前準備の内容確認 等
4月下旬	抄録の登録	
5月下旬	パワーポイントデータの送信 アーカイブ用動画締め切り	
6月中旬	第6回実行委員会+係員説明会	最終確認。係ごとに細かい部分まで確認を行う。
7月2日（水）	大会当日	パシフィコ横浜3階
9月下旬	第7回実行委員会	大会振り返り、表彰式

3 係別打合せ



【大会運営】

1) アーカイブ構築について

○アーカイブ用動画の撮影方法について

- ・会場に撮影機材を入れるとコスト的に厳しい。パワポに音声を入れる形式であれば費用はかからない。
- ・zoom は録画、編集と使い勝手が良いが、事務局でどの程度編集することが可能か要確認。
- ・事務局がリソースを貸し出すことができれば事前研修はほぼ必要ない。

« 11月20日の大会運営打合せ »

⇒撮影後のデータのアップロードの際に、パワポによる録画は過去の大会で経験があるため、サーバー側も費用なしで受入れができるが、zoom 録画はサーバー側の作り込みに費用が発生する。第3回実行委員会でパワポ、zoom 両方の動画を委員が見て判断する。また、それぞれの動画のデータ量から、現在借りているサーバーの容量だと、何題×何年間の保存が可能かを県社協で算出する。

○参加費および視聴の期間とタイミング、購入意欲を高める仕掛けについて

- ・会場参加とセットの場合は費用を安く、視聴のみは高くする。
- ・施設で1つのIDとパスワードを共有されるのを防ぐため、ワンタイムパスのようなものを設定できないか。
- ・オンデマンドは廃止し、会場参加とアーカイブ視聴の2つのみにする。
⇒アーカイブ視聴のみ5,000円、セットの場合は10,000円
- ・視聴期間が長過ぎると視聴する人がほばいない状態となり、業者のレンタルサーバーにかかるコストが無駄になってしまう。大会後、約1ヵ月後から1ヵ月程度が妥当か？
- ・参加者の興味を引く講師を招くのはどうか。

« 11月20日の大会運営打合せ »

⇒1つのIDとパスワードを施設内で共有されることを防ぐ仕組みは設定可能。

参加費は、①会場参加のみ8,000円、②アーカイブ視聴のみ5,000円、③会場参加＋アーカイブ視聴のセット10,000円とする。アーカイブ視聴期間は1ヵ月程度（例：大会当日7月2日、アーカイブ視聴期間8月1日～8月31日）とする。

参加者の興味を引く講師は、研究発表のタイムスケジュールから時間を割くことが難しいため見送りとする。

2) 開催要項の検討について

- ・大会冊子は広告収入との関係があるため作成する。

○アンケート回収率を上げる方策について

- ・抽選で後日 Amazon ギフトを送る方法であれば、メールにてやりとりが可能で費用対効果が高い。
- ・協賛企業から何か提供してもらえないか。できれば送料も企業に負担してもらえると良い。
- ・当日であれば送信完了画面を提示することを条件にその場で配布する。

≪ 11月20日の大会運営打合せ ≫

⇒アンケートは紙での対応はせず、Google フォームによるアンケートのみとする。回収率をあげるために、回答者のうち抽選で30人に1,000円分のAmazon ギフトを送付する。Google フォームのメールアドレス入力を必須とし、回答後に自身に返信メールが届いているかを確認してもらうよう呼び掛ける。回答は極力選択式とし、項目数は少なくする。

3) 受付について

- ・エレベーターを上った後、Bエリア側に向かって列を作り、その奥に受付を設ける。
⇒当日申込せずに来場した人から参加費を確実に受け取る工夫が必要。
名札を下げていない人を見逃さないよう係員全体で意識統一をはかる。
- ・来賓者用の部屋は、313・314・315に変更。
- ・Bエリアの通路はやや狭い。315が空いているのであればそこに受付を作ることもできる。

≪ 11月20日の大会運営打合せ ≫

⇒受付は海側の316とする。それにより、来賓室・資機材置き場を315に変更する。動線の関係もあるので、エスカレーターを315の会場方向に昇ってくる形から逆方向の喫煙スペース側に昇ってくる形に変更できないかパシフィコ横浜に確認する。

4) PR戦略について

- ・前回大会のX（旧 Twitter）のフォロワー数は33名。県内の施設に必ずフォローしてもらうよう呼び掛ける。
- ・Instagram のストーリーを高い頻度で上げつつ、ハイライトにも残して過去のストーリーを閲覧できるようにする。
- ・美大に協力を依頼して、目を引くような写真・デザイン等を作成してもらうことができるか。
- ・大学等にも大会の案内を配布するのはどうか。

≪ 11月20日の大会運営打合せ ≫

⇒前回大会で活用した X と今回新たに導入する Instagram を併用。データ作成及びアップは頻回に行うと大変なので、担当者を決め、写真等の素材も事前に溜めておく、写真に写っている人への確認作業等、いろいろと準備が必要になる。

【研究発表】

1) 表彰について（案）

賞の名前	題数	選び方	発表・受賞等
参加賞	32 ～ 40	各ブロックから厳選されてきたものなので、参加した32～40題全てに参加賞を渡す。	当日参加賞を渡す。
優秀賞	4	各ブースから1題選ぶ。	①審査日 案1 当日行う 案2 後日集まる ②受賞式は、11月の県社会福祉大会で行う。
最優秀賞	1	各ブースから上がった4題から1題を選ぶ。	

2) 審査員について

- ・ 5 名（①養成校、②施設長、③施設中堅職員、④行政、⑤新聞社）

※⑤が難しい場合はそこに施設長を追加

- ・ 基準票は 4 段階。5 人で評価を行い。最高点と最低点を外し、中間 3 人の点数を合計した点数で競う。
- ・ 審査員の目線合わせができると良いが、先に委員が模擬として昨年の録画を用いて点数付けを行う。
⇒審査員にも事前研修として利用できるか？
- ・ 当日、1 題の発表が終わった時点で評価の確認を行う。

委員も 1 題だけ評価を行い、審査員と確認する。

3) 発表時間

- ・ 発表 15 分－質問 5 分－移動・休憩 10 分
- ・ 1 ブース 34～40 題÷4 ブース＝9～10 題
- ・ 各ブースで審査員により「優秀賞」を選ぶ。
- ・ 「最優秀賞」を選ぶ際に、当日審査員全体で審査するか、後日審査結果をもとに委員が選ぶか。

題数 34～40 題

横浜 12

川崎 6～8

県 12

相模原 4～8

4) 研究発表の募集後のカテゴリー化について

- ・ 題目が上がってきってからでないとカテゴリー分けできない。

募集締め切りを 3 月中旬にして、3 月下旬から 4 月上旬に振り分け作業を行い、4 月の実行委員会に間に合わせる。

5) 発表内容ブラッシュアップ研修について

- ・ 研究発表希望者に対して行う内容

① 大島たけし先生による発表の仕方や心構え

② 倫理的配慮としての文言を入れた zoom を配信していくのはどうか。

（小田原・足柄地区福祉施設連絡会の資料「倫理的配慮」と横浜市高齢者福祉研究大会の注意事項[著作権等]を参考にする）

【介護技術発表】

1) 発表プログラムについて

- ・ 会場 311 と 312 を使い 8 題ずつ（計 16 題）発表するので、各ブロック 4 題、少なくとも 2 題は出し 8 題は確保する。ブロックからの発題確保が難しい場合はオープン参加での募集とする。
- ・ 現状の現場に則すなら、介護ロボット、ICT、おむつセンサー、眠りスキャンなどの内容も考えられ、全て実演は難しいので今回から動画等の活用を認める。ただし研究発表とのすみ分けの意味でも、発表者のデモンストレーションは必要。
- ・ 初心者や外国人の方でも難しくなく取り掛かりやすいということをアピールできる機会にし、「自分もできる」という気持ちになってもらえる発表にしたい。

- ・発表に企業の連携もあって良い。その場合、企業の PR にならないようにして公平性を担保する必要があるが、介護技術の現状を見てもらう有効な機会になるのではないか。また、神奈川産業振興センター、神奈川福祉サービス振興会、パルコ等、企業との連携により発表の引き出しが増えるのは備えとして良いこと。
- ・10月29日に実施される横浜市高齢者福祉研究大会の発表者の中から技術発表に転用できるものがあるかもしれない。ICT の活用で効率が上がった内容や生産性の向上につながったという内容なら十分技術発表になり得る。12 題ほど回してもらえないか。
- ・発表時間は研究発表に合わせる。

2) 評価者について

- ・評価者は演題によって決めることになるので3月頃になる。1会場に2, 3人は欲しい。経験豊富な職員を入れるのも良いかもしれない。
- ・評価表は昨年と同様のものを使用する。テーマの「2040年を魅力的な福祉・介護の未来に変える」に合った内容のものに得点を与える。
- ・表彰は点数化して上位3チームにするか。会場ごとに最上位者を選出し、その2チームから最優秀賞を選ぶか（表彰が片方の会場に偏らないようにするため）。
- ・表彰が後日なら、当日はコメントのみとし、アーカイブ等を専門の評価者に見てもらってからの表彰もあり。

3) 課題事例・事前提出シート様式について

- ・事前提出シート様式は昨年のを参考に考案する。
- ・課題事例は、昨年度の事例をサンプルとして使いたい。

4) 介護技術発表者事前講習会について

- ・クオリティの確保や質問受付を想定して事前講習会の実施は必要。時期は、職員異動のある3月を経て4月が望ましい。

5) その他

- ・チラシに動画も併用できることを盛り込む。また具体的なテーマ例「ICT や生産性向上」「LIFE」「災害時の対応」「その他」の文言を入れる。
- ・要項にポイント及び審査と講評があることは載せるが、評価表は載せない。

【協賛企業出展コーナー】

1) 金額について

- ・価格を下げてしまうと収入がさらに減ってしまうので、価格は下げず A エリアの金額に合わせる。人をブースへ流す工夫をする必要がある。
- ・広告+当日パンフレットを設置（+aで金額を上乗せ）してはどうか。
- ・申込順に場所が選べる、もしくは選ぶ権利が欲しい場合は+aで金額が発生する等工夫。
- ・金額は同額とし、B エリアのみ大きさを少し大きくする工夫はどうか。

2) 協賛メリット

- ・参加者よりも事務長や施設長との繋がりを作りたいと思うので、場を作る。

- ・実行委員を2組に分けてブースを回る等、施設長と出会う機会の創出。
 - ・企業ではなく、商品を使っている施設が商品についてPR動画を作る。動画は空き時間や事前にSNSで流す。フォロワーの多い施設がやれるとなお良い。(実行委員の施設だとやりやすい)
- ⇒施設と特定の企業との関わりをPRするような形はどうだろうか。

3) 広告の工夫

- ・広告を見ても内容が分からないものがある。金額はある程度取ってサイズを大きくしてはどうか。
- ・パンフレットにブースナンバーを入れた方が分かりやすい。
- ・広告の内容について、こちらから入れてもらいたい内容を提示する。また、取引先一覧等もあると良い。
- ・カテゴリー別に掲載するのも分かりやすいのではないか。

4) その他

- ・葬儀会社は広告には興味があり、出展は難しいとの反応。
- ・ふとん乾燥、リネン会社、葬儀会社など新規開拓もしていく。

4 その他

- ・第3回実行委員会

日時：令和6年12月25日(水) 10時～12時

場所：神奈川県社会福祉センター6階

**第22回かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会
役割分担表**

		主 な 内 容	責 任 者	所 属 / 氏 名		備考
総括	各 事 務 局 含 人 数	<ul style="list-style-type: none"> ・大会全体の統括 ・優秀発表の公表方法の検討 ・マスコミ対応 ・アーカイブ構築の検討 	晝間 靖裕	弥生苑	西山 宏二郎	各係の 責任者 が着任 します
				陽光の園	加藤 馨	
				たきがしら芭蕉苑	前田 卓哉	
				夢見ヶ崎	清水 完敏	
				特別養護老人ホームモモ	大久保 祐次	
				やまゆりホーム	晝間 靖裕	
				寒川ホーム	三澤 京子	
				泉の郷	紺野 智秋	
				すえなが	平山 みちる	
				東林間シニアクラブ	阿部 匡秀	
			顧問	上郷苑	篠原 正治	
大会運営 4人	5 人	<ul style="list-style-type: none"> ・大会の開催要項作成 ・参加受付対応(参加者、発表者) ・当日係員の調整 ・当日の記録 ・アーカイブ構築の検討 	平山 みちる	藤沢養護老人ホーム	川瀬 和一	
				白朋苑	野尻 周志	
				すえなが	平山 みちる	
				芙蓉の園	坂本 陽二郎	
				川崎市社協	鈴木 哲生	
研究発表 6人	7 人	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表全般の企画立案 ・募集要綱の検討(介護福祉士養成校との連携含む) ・発表内容ブラッシュアップ研修会の検討 ・審査員及び審査基準の検討 ・優秀発表の選出方法の検討 ・アーカイブコンテンツの検討 	阿部 匡秀	ルビーホーム	関田 智彦	
				太陽の家	北村 明美	
				わかくさ	清水 雅	
				等々力	岩壁 信行	
				東林間シニアクラブ	○阿部 匡秀	
				YMCA健康福祉専門学校	内田 智美	
				相模原市社協	秦 玉 衣	
介護技術発表 4	5 人	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術発表の企画立案 ・募集要綱の検討 ・評価項目の検討・評価者調整 ・評価者及び評価項目の検討 ・優秀発表の選出方法の検討 ・アーカイブコンテンツの検討 	三澤 京子	寒川ホーム	三澤 京子	
				新横浜さわやか苑	藤野 宏史	
				多摩川の里	茶園 恵美子	
				特別養護老人ホームモモ	大久保 絵成	
				神奈川県高齢協	宮口 恵美子	
				道志会老人ホーム	大滝 愛子	
協賛出展 4	5 人	<ul style="list-style-type: none"> ・協賛出展の企画立案 ・協賛企業の募集 ・会場内のレイアウト調整 ・アーカイブ構築のサポート 	紺野 智秋	泉の郷	紺野 智秋	
				大師の里	古敷谷 耕平	
				東橋本ひまわりホーム	山口 悠斗	
				横浜市社協	黒川 友希子	

印は実行委員長 印は副実行委員長 印は協議会会長 印は協議会副会長

事例発表にあたっての「倫理的配慮」について（お願い）

小田原・足柄地区福祉施設連絡会

事例の発表にあたっては、施設外の地域の方々や研究発表などで多くの方々に情報を提供することになります。それには、発表する側の責任が発生します。事例発表（研究）をする時には、発表（研究）協力者、例えば、事例の当事者、職場の同僚などの職員の個人情報の取扱いについて、倫理上、人権上配慮する必要があります。この倫理的配慮は、事例対象者を守ることではありますが、結果、発表する側（発表者）を守るものでもあります。医療領域の専門職では、この倫理配慮の遵守は厳しくいわれてきています。また、社会福祉士や介護福祉士の福祉教育機関でも学生に倫理配慮の遵守が指導されています。

通常、今までの発表時、配慮をしていただいていると思いますが、今一度、発表にあたり下記内容をご確認いただければと思います。

なお、*事例発表者は、倫理配慮をしたことを発表時の資料に入れるか、または、口頭説明で簡単に下記の事項の中で倫理配慮をした内容をどう倫理配慮したか説明してください。倫理配慮を話すことで、発表を聴いている側には、発表者の誠実な取り組み姿勢（マインド）や施設のリスク管理が伝わっていくと思います。

よろしくお願いいたします。

記

1. 法人、施設内に倫理審査会が設置されている場合は、その承認を得てください。
社会福祉法人、福祉施設には、倫理審査会の設置がないところが多いと思いますので、発表内容について、施設長の承認を得てください。
2. 事例（研究）対象者に対して、事例発表（研究）の目的、事例の取扱い、発表内容を説明し、承諾をもらってください。事例（研究）対象者に意思確認が取れない場合は、その方の代理人（成年後見人、身元保証人など）の承諾を得てください。【説明と同意】
なお、同意を得るための説明をする際には、事例（研究）対象者や代理人がその同意を途中で撤回した場合においても不利益を生じさせることはないことを、申し添えてください。
3. 事例の内容が、例えば、事例対象者の身体的症状や栄養の改善を取り上げた場合、例えば、血液検査をしていく、特定の飲料や栄養補助食品などを摂取してもらうような場合（直接体に触れたり器具を入れるなど体に影響を与えるような場合）、その時は、対象者の身体的・精神的マイナスが生じないように主治医に相談をして行ったなどの配慮が必要になってきます。
【安全性の確保】
4. 個人情報の匿名化をします。
事例（研究）対象者の氏名、生年月日、住所など個人を識別する情報を取り除きます。
【個人情報の匿名化】
〈例〉
 - ① 氏名→イニシャルではなく、A氏、B氏など記号化します。
 - ② 年齢→53歳とせず、50歳代などとしします。
 - ③ 住所→イニシャルではなく、A市、B市など記号化します。
 - ④ 病名、出身地など事例内容に大事で必要な場合は、発表内容に含める必要がありますが、〇〇県と入れても△△市まで入れる必要がなければ、いれない。または、関西の出身などが適当かも知れません。そこは、事例内容から判断してください。
 - ⑤ 個人が特定される写真使用時は、上記に記載したように、事例（研究）対象者、代理人の同意をえるようにお願いします。

第1回高齢者福祉施設 PR 委員会 報告

開催日時：令和6年11月8日（金）午後3時～5時

構成：大久保委員長（県老協副会長）、森委員（県域）、牧野委員（横浜市）、白井委員（川崎市）

■議題

1 本委員会の進め方について

＜ホームページ構成案について＞

- ・県老協のホームページを立ち上げ、一般向けのPRを進めていく。構成案は資料のとおり。本委員会では企画会議をメインに行い、プロを入れながらコンテンツの制作や取材を進めていき、ホームページを基地としてPR活動を展開していく。
- 「TOPICS」は1週間から1カ月に一度程度の更新で、その時にPRしたいこと等を掲載する。その情報がアーカイブ化される、もしくは詳しく紹介する記事につながるようにする。
- 「会員ページ」は会員のみが閲覧、共有できる。
- 「イベント」は高齢大会や求人会計のイベント等の掲載を想定。高齢大会の結果やPR記事等を受け、最終的には出版事業までつなげたいと考えている。“2040年を形作るためのアイディア集”等、いずれ出版できればと思う。
- 「PR」は高齢大会の優秀賞の紹介や大会の前振りを想定している。
- 「調査研究」は特養の実態調査等を掲載していく。
- 「組織・会長」「関係行政リンク」「年度計画・事業報告」「会員ページ」は固定ページで更新頻度は低い。
- 「MAIN TOPICS」「TOPICS」「イベント」「PR」「調査研究」は変動ページで更新頻度は高い。「調査研究」を除く4つについては動画媒体も想定する。
- 構成案に沿って作るとなると予算やメンバーが必要になる。
→高齢大会ホームページを委託している業者と同一の業者に依頼した場合、高齢大会ホームページとのリンク付けが簡易にでき、経費を抑えられる可能性がある。

＜TOPICSにおける各施設の取り上げ方について＞

- ・各ブロックの取り組みを気にしながら、各施設が発信したいことを発信できるようにしていきたい。TOPICSとしての会員施設の取り上げ方はどのような形を想定するか。
- ・モデル施設や表彰を受けた施設、ベスト介護20に選出されている施設等を紹介することも考えられる。
- ・すべての会員施設1つずつにスポットを当てることは現実的ではない。会員リストとして各会員施設ホームページのリンク集を掲載するので良いのでは？
- ・庭の上手な活用実践、動物を飼っている（アニマルセラピー？）取り組み等、テーマごとに施設をピックアップしてスポットを当てていくイメージ。記事の閲覧数によって、イベントにつなげていくことも考えられる。
⇒テーマに沿った施設にスポットを当て、取り上げていく。

<ホームページの名称について>

- ・一般の人に理解してもらえるもので優しいイメージの名称にしたい。“老人福祉施設協議会”のキーワードで調べる人はいないだろう。キーワード検索で上位に来るようなワードの紐づけが大切。

<相談フォームについて>

- ・相談フォームは担当者をつけなければならず、料金等の細かいことは各施設で異なるので、問い合わせを各施設にするよう促すようにした方が良い。
- ・ホームページ訪問者が選べるように、各施設のホームページへのダイレクトリンクを設け、直接施設へ質問ができるように促したい。

⇒**相談フォームは設置せず、各施設へ問い合わせを促すような構成にする。**

<初回 TOPICS 案について>

- ・“特養”と“有料”の違いを記事にするのはどうか。一般市民の認識として、特養も初期費用がかかったり、空所がないとされていたり、有料のホームページに入所待ちがあるような記載があったりする。
- ・“サ高住”との違いを知らない方もいて、入居後にイメージと異なるという話も聞く。

⇒**“特養”と“有料”の違いといった高齢者施設を解説する内容で検討していく。**

<TOPICS の執筆者について>

- ・取材や執筆については、神奈川県内の学生とのコラボも検討している。学生にとっても卒論につながるし、若い人に興味を持ってもらえる良い機会になるのではないかな。
- ・大学のホームページでも紹介してもらえると、親も見erだろうし、マスコミに取り上げてもらえるかもしれない。
- ・月1回の頻度で記事を出すとすると、学生の作業量として負担感が大きいのではないかな。1～2つ決めて動かしてみて、頻度や依頼先数を検討していくのが良い。

⇒**学生とのコラボを想定し、依頼することを整理したうえ、複数の候補先を挙げていく。**

<TOPICS のテーマについて>

- ・高齢大会の発表を深掘りすればテーマはたくさん出てくる。
- ・施設に地域住民が利用できる会議室があっても、施設と住民をつなぐ人がいないと、利用につながらない。地域資源を知ってもらえていないといった事案もある。
- ・記事を読んだ人が、利用するイメージが分かるような事例が盛り込まれていると良い。

<ホームページの公開時期について>

- ・来年2月開催予定の委員会で予算の承認を得たい。メインタイトル、アイコン、体裁等、今後つめていく必要がある。予算規模は次回のPR委員会にて提示する。

2 その他

次回は12月11日（水）午後2時より開催。

高齢者福祉施設 PR 委員会について

◇経緯

かながわ高齢者福祉研究大会は、これまでの経過の中で研究発表に加え、介護技術発表の開催や就職相談会のブース設置、施設紹介ブースの設置など、職員の質の向上及び情報共有を目指す当初の目的にプラスして人材確保や一般市民への理解・普及などの目標も持って運営してきました。

しかしながら、今後のあり方検討会では、目的の違う複数の要素を包含して大会を運営するより、それぞれの目的をはっきりして、分けて検討、企画を行っていく方が良いとの意見が多くだされ、

①かながわ高齢者福祉研究大会実行委員会と②一般向け（PR）の大会検討チームの2つに分けて検討していくこととなりました。

◇目的

一般市民への理解・普及を一番の目的とする。

一般市民への理解・普及…正しい知識・現状の情報提供（例：入所状況、全県の情報、他県との比較、有料老人ホームとの違いなど）

なお、人材確保については総合的に見れば PR によりそれに繋がるが、そこは二次的な目的とする。よって人材確保等部会との連携は当面は行わない。

◇メンバー

⇒当初は4人で始め、各ブロックの事務局を加えたメンバーとする。

神奈川県 森 弘 樹（ヒューマン施設長）

横浜市 牧 野 裕 子（第2新横浜パークサイドホーム施設長）

川崎市 白 井 裕 一（特別養護老人ホーム富士見プラザ施設長）

相模原市 大久保 祐 次（社会福祉法人蒼生会 特別養護老人ホームモモ理事長）

+各ブロック事務局

◇検討の方向性について

- ・一般（就職希望者を含む）向けに**高齢者福祉施設の魅力や入居までの実際の手続きや期間、プロとして働く介護職員の日常などを積極的にPRしていく機会**をどう作ってイけるかを検討する委員会となる。
- ・イベント開催の場合は、その規模は県全体というよりは、ブロック毎あるいはもう少し狭い範囲（県の場合、9ブロック、政令市の場合は各区など）での開催とし、運営は各ブロック事務局にお任せする。
- ・県老協はその運営の後方支援的な役割で、かながわ高齢者福祉研究大会での優秀発表の調整などを担うこととする。

⇒当面は、ホームページによる情報提供を目指し、イベント開催についてはその後の検討事項とする。

◇ホームページについて

①ホームページの構成およびコンテンツについて

(本日のメインの議題。フリーにアイデアを出し合ってみる。)

(ホームページの構成として、A 高齢者施設について知りたい方、B 高齢者施設で働きたい方、C 研究大会に興味がある方など、そこは拡張の余地をもって考えておく。)

②ホームページの設置および運用方法について

(ホームページにどう呼び込むか、二次元コードやインスタグラム、TikTok、15 秒動画の活用等)

③プロが作る力、魅せ方の違いを取り入れるか？

(ホームページ制作会社 3 社程度、ホームページ素材制作会社 3 社程度ピックアップ)

④一般からの疑問・問題提起

(どうやって声を拾っていくのか、またイメージ作りも含めどのように情報提供していくか考える)

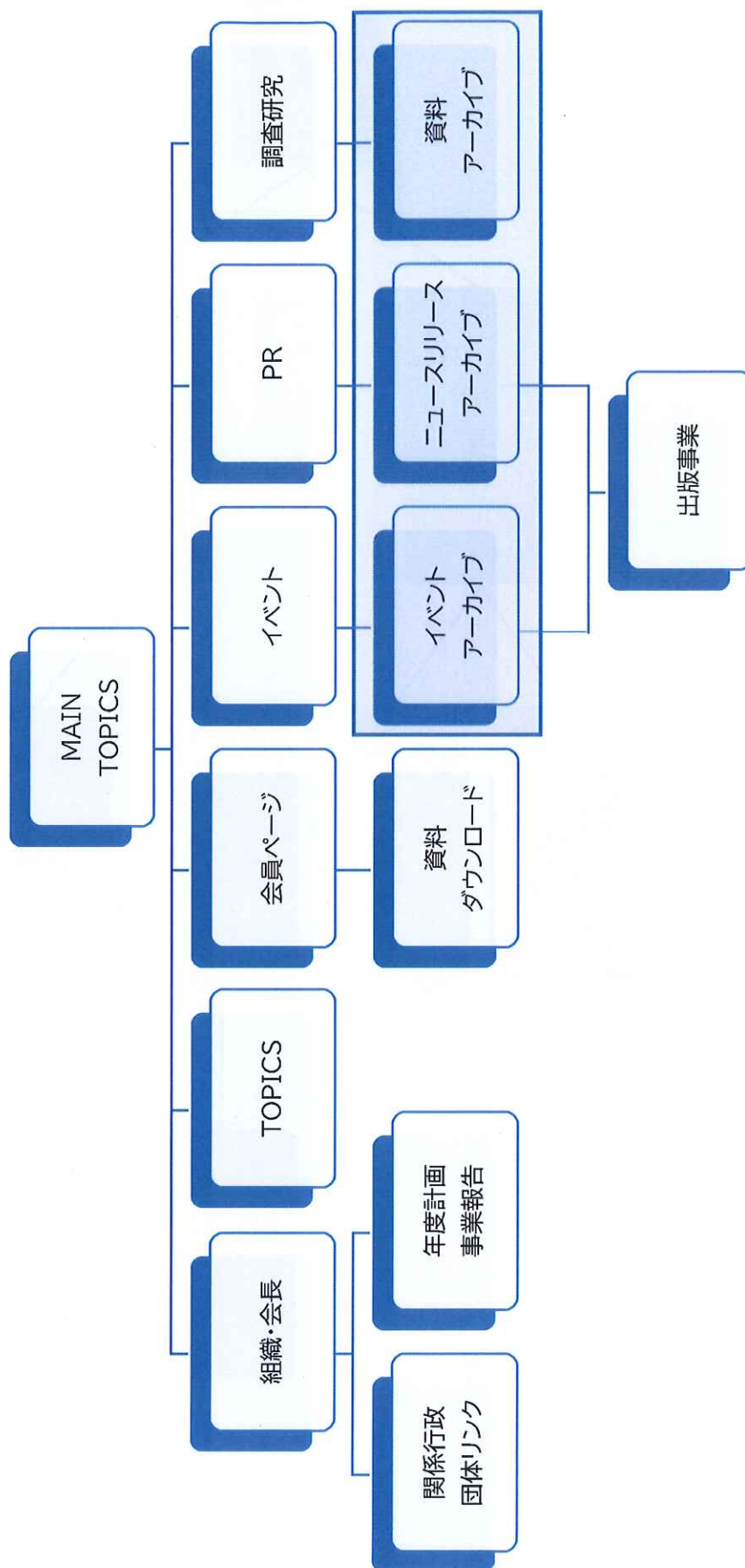
(参考:施設での庭の活用を世界的にまとめた本、認知症の方の案内表示のしかた等)

⑤PR 戦略

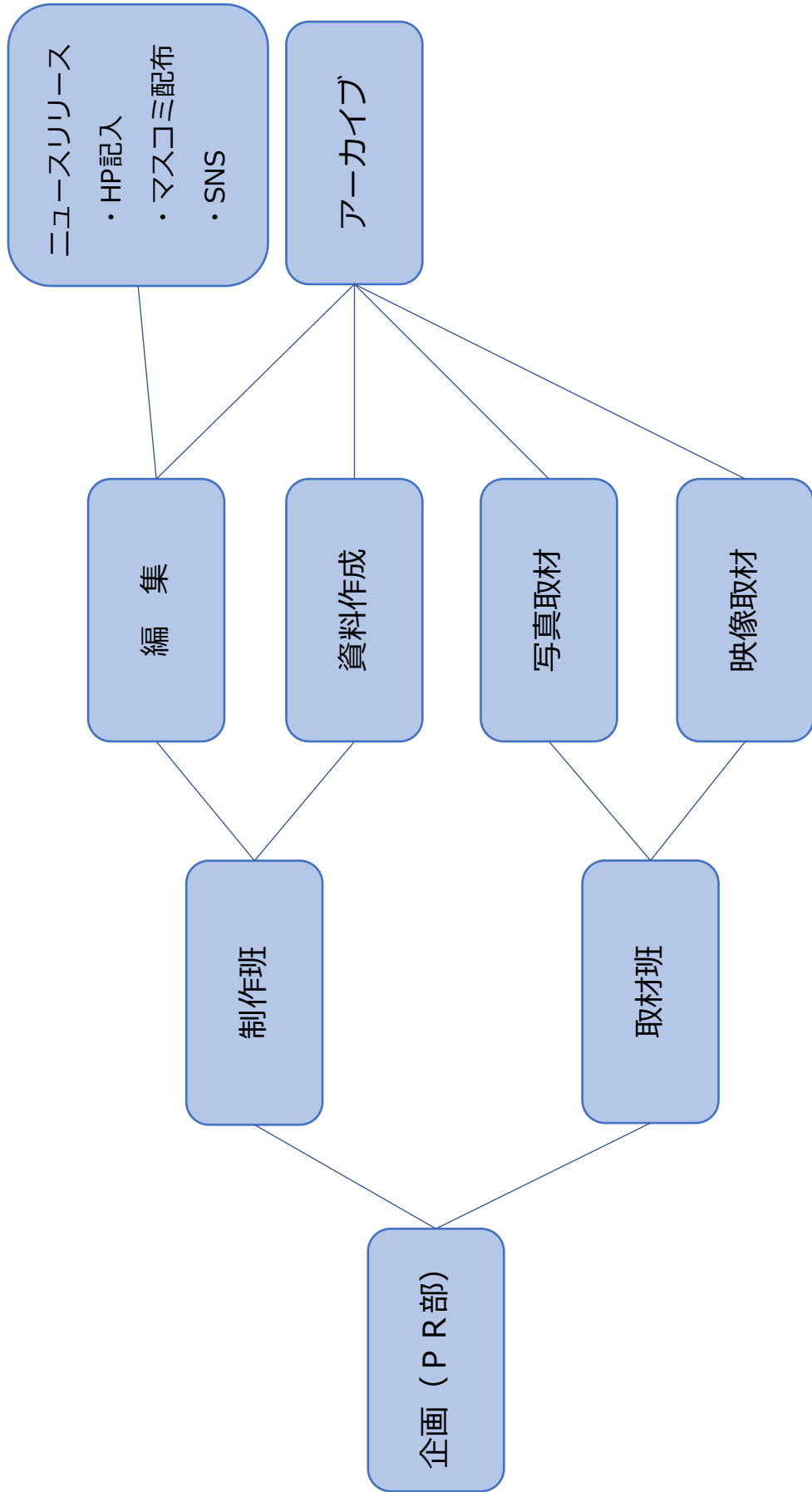
(本日の委員会での内容を受け、ターゲットや目的を整理し策定。)

(ターゲットは一般市民だが、その方法としてマスコミ・メディア・出版社(新聞・雑誌・タウンニュース等)も視野に。)

1. ホームページの構成



2. P R 制作部



会員施設 施設長 各位

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会
施設部会 老人福祉施設協議会
会 長 清 水 完 敏
(公 印 省 略)

第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会）での分科会発表者の募集について（ご案内）

日ごろから、川崎市社会福祉協議会施設部会の老人福祉施設協議会の運営及び諸事業の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会において、来年 6 月に「第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会）」の開催が予定されております。

この度、開催地事務局より本大会の分科会発表者の募集がございましたので、次のとおり発表施設を募集いたします。

施設での日ごろの取組や実践、研究を発表する場として、また、日常業務を施設全体で見直すきっかけとして、是非この機会にご応募くださいますようお願いいたします。

1 第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会）開催日程等

日 時：令和 7 年 6 月 1 2 日（木）～1 3 日（金）

〔分科会：6 月 1 3 日（金）9：00～12：30〕

分科会会場：TOC 有明 4 階 East&West・2 0 階 WESTGOLD20 ホール

2 発表募集テーマ ※本大会は川崎市からの発表テーマは事前指定

分科会 4 ... 在宅・デイ

3 募集概要及び応募方法

同封の「第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会 発表施設募集概要」をご参照ください。

4 同封資料

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| (1) 第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会） | 発表施設募集概要 |
| (2) 第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会） | 分科会発表施設応募用紙 |
| (3) 第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会） | 開催概要（案） |
| (4) 第 6 0 回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会） | 「分科会テーマの内訳」 |

5 その他

本研究総会の開催詳細につきましては、2 月以降発送の開催要綱でのご案内となります。

(お問い合わせ先)

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会
福祉部 施設事業推進課 担当／鈴木

TEL：044-739-8717 FAX：044-739-8737

Mail：shisetsu-dantai@csw-kawasaki.or.jp

第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会）発表施設募集概要

1 発表募集テーマ

分科会4 … 在宅・デイ

※川崎市からの発表テーマが事前指定されています。できる限り、指令された発表テーマでの応募をお願いします。

※テーマの詳細につきましては、同封の「分科会テーマの内訳」をご参照ください。

2 募集施設数

1施設

3 発表内容

発表時間：15分以内

発表人数：複数名での発表可

発表形式：パワーポイントを使用しての発表

4 参加経費の補助

本大会の参加に係る経費の内、次のものについては2名分まで開催地で負担いたします。

○開催地：大会参加費・宿泊費・交通費

5 応募方法及び応募締切

同封の『分科会発表施設応募用紙』に必要事項をご記入いただき、FAXまたはメールによりご応募ください。〔申込締切日：令和6年12月11日（水）まで〕

6 応募者の選考

老人福祉施設協議会正副会長との協議の上、発表者を決定させていただきます。

7 応募後の流れ（目安）

12月中旬 … 各応募施設への選考結果の連絡

12月以降 … 資料掲載用の発表要旨の提出（開催地へ）

8 提出及び問合せ先

社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 老人福祉施設協議会担当：鈴木
川崎市中原区上小田中6-22-5 川崎市総合福祉センター6階

TEL：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@csw-kawasaki.or.jp

★本紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールによりお送りください★

川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 老人福祉施設協議会担当／鈴木宛

FAX：044-739-8737 / メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

【令和6年12月11日（水）必着】

第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会） 分科会発表施設応募用紙

【発表テーマ】 ※下記のいずれかにチェックしてください。

- ☐分科会1：認知症対応/医療・介護連携、看取り ☐分科会2：自立支援
☐分科会3：経営、人材確保・育成定着 ☐分科会4：在宅・デイ ※割当
☐分科会5：軽費老人ホーム・ケアハウス、養護老人ホーム

施設名		種別 ※○をつけてください
		特養・養護・軽費・ケアハウス・ デイ・その他（ ）
ふりがな		発表者①職種・役職
発表者①氏名		
ふりがな		発表者②職種・役職
発表者②氏名		
連絡先	TEL：	
	FAX：	
メールアドレス		
発表タイトル及び発表概要を下記にご記入ください。（現時点でのご予定で構いません。）		
【発表タイトル】		
【発表概要】		
《発表予定人数： 人》		

《お問い合わせ先》

川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 担当／鈴木

電話：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

第 60 回関東ブロック老人福祉施設研究総会

第 20 回アクティブ福祉 in 東京' 25 合同大会の概要 (案)

メインテーマ

介護・福祉の大変革 2025～活力ある超高齢社会のために～

- 1 主 催 公益社団法人全国老人福祉施設協議会、関東ブロック老人福祉施設連絡協議会
東京都高齢者福祉施設協議会
- 2 期 日 令和7年6月12日(木)～13日(金)
- 3 会 場 1日目(全体会): 東京ビッグサイト 国際会議場
2日目(分散会): TOC 有明 4 階 East&West、20 階 WESTGOLD20 ホール
- 4 日 程 **※各県市の分科会発表者様のスケジュール・分科会テーマは赤枠部分となります。**

■全体会 令和7年6月12日(木) ※予定

日程	時間	関東ブロック老人福祉施設研究総会	アクティブ福祉 in 東京' 25
1日目 (全体会)	11:20-12:20	0: 受付	※関ブロに参加可
	12:20-12:50	1: アトラクション	
	13:00-13:50	2: 開会式 ①開会のことば ②主催者あいさつ ③感謝状贈呈 ④来賓祝辞 ⑤来賓紹介 ⑥主催者紹介 ⑦閉会の言葉	
	14:00-14:30	3: 基調報告(大山会長)	
	14:30-15:00	4: 行政報告	
	15:00-15:15	5: 休憩	
	15:15-16:15	6: 記念講演	
	16:20-16:30	7: 次回開催県(栃木県)紹介、閉会	

■分科会 令和7年6月13日(金) ※予定

日程	時間	関東ブロック老人福祉施設研究総会	アクティブ福祉 in 東京' 25
2日目 (分散会)	8:30-	受付	
	09:00-	オリエンテーション	オリエンテーション
	09:15-09:30	① ① ① ① ①	① ① ①
	09:35-09:50	② ② ② ② ②	② ② ②
	09:55-10:10	③ ③ ③ ③ ③	③ ③ ③
	10:15-10:30	④ ④ ④ ④ ④	④ ④ ④
	10:40-10:55	⑤ ⑤ ⑤ ⑤ ⑤	⑤ ⑤ ⑤
	11:00-11:15	⑥ ⑥ ⑥ ⑥ ⑥	⑥ ⑥ ⑥
	11:20-11:35	⑦ ⑦ ⑦ ⑦ ⑦	⑦ ⑦ ⑦
	11:40-11:55	⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧	⑧ ⑧ ⑧
	11:55-12:15 (-13:35)	各部屋で表彰	昼休憩 ランチョンセミナー
	13:35-13:50	-	⑨ ⑨ ⑨
	13:55-14:10	-	⑩ ⑩ ⑩
	14:15-14:30	-	⑪ ⑪ ⑪
	14:35-14:50	-	⑫ ⑫ ⑫

▽分科会のテーマ

関東ブロック老人福祉施設研究総会	アクティブ福祉 in 東京' 25
○第1分科会テーマ 「認知症対応/医療・介護連携、看取り」	○第1分科会テーマ 「日常ケアの向上」
○第2分科会テーマ 「自立支援（リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養）」	○第2分科会テーマ 「科学的介護の実践・生産性向上の取り組み、地域包括ケア・地域貢献・地域共生社会」
○第3分科会テーマ 「経営、人材確保・育成・定着」	○第3分科会テーマ 「次世代を見据えた人材採用・育成・定着/広報戦略」
○第4分科会テーマ 「在宅・デイ」	
○第5分科会テーマ 「軽費老人ホーム・ケアハウス、養護老人ホーム」	

▽大会特設サイト

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/tokyo2025/index.html>



5 参加人数 1,200 人

6 参加対象 関東甲信越（1都10県5政令市）の都県市の老人福祉施設、高齢者福祉関係の施設・事業所の役員または職員並びに福祉行政関係者、その他高齢者福祉の関係者

第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会）
分科会テーマの内訳

分科会名	テーマ項目	発表テーマ事例
第1分科会	認知症対応/ 医療・介護連 携、看取り	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケア ・個別ケア ・家族支援への取り組み ・転倒予防・事故防止への取り組み ・看取りケア ・医療・介護等多職種の連携 ・誤嚥予防の取り組み ・褥瘡等皮膚トラブルへの対応 ・コロナ・感染対策 など
第2分科会	自立支援(リ ハビリテー ション・機能 訓練、口腔、 栄養)	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援介護 ・重度化防止の取り組み ・記録の活用とアウトカム評価 ・排泄ケア ・入浴ケア ・口腔ケア ・栄養マネジメント ・機能訓練とリハビリテーション ・アクティビティ・レクリエーション など
第3分科会	経営、人材 確保・育成・ 定着	<div> <div> <p>(経営)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人戦略(経営・運営) ・経営の合理化・適正化 ・稼働率アップや加算取得戦略 ・2040 年を見据えた経営戦略 ・地域における公益的な取り組みの実践 ・物価高騰への対応 ・医療と介護の連携 ・補助金を活用した事業展開 ・社会福祉連携推進法人の活用による経営の効率化 ・地域医療介護総合確保基金を活用した事業展開 ・小規模法人のネットワーク化事業による経営効率化 ・社会福祉法人の利用者負担軽減の取り組み </div> <div> <p>(人材)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護人材採用戦略 ・潜在介護福祉士の復職支援 ・働き方改革とアクティブシニア ・介護職の魅力のを見つけ方と伝え方 ・ユニークな福利厚生、採用方法 ・上司、職員のコミュニケーションの取り方 ・外国人介護人材定着と活用への課題と対応 ・従事者の働きやすい環境づくり ・モチベーションにつながるキャリアパスの形成 ・ロボット導入による業務効率化 ・技能実習・特定技能制度の活用と展望 ・地域と連携した人材確保 など </div> </div>
第4分科会	在宅・デイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT・LIFE 導入への取り組み ・魅力ある在宅サービスと生き残り戦略 ・多職種協働による中重度化への対応と重度化防止の取り組み ・地域での栄養ケアの実態とフレイル予防 ・自立支援・ADL 改善や ICF に基づくケア ・相談支援機能を発揮した地域におけるソーシャルワーク活動 ・健康寿命延伸に向けた総合事業・地域支援 事業への取り組み ・機関協働による認知症予防や地域生活課題 への対応 ・実効性のあるBCP の策定と具体的な取り組み(PDCA) ・生産性向上による在宅サービスの新たな価値創造 など
第5分科会	軽費老人 ホーム・ケア ハウス、養護 老人ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の健康寿命の延伸・フレイル予防 ・食べる楽しみと栄養改善に向けた取り組み ・認知症ケア、高齢障害、精神障害、慢性疾患(難病を含む)の方への対応 ・高齢者の住まい確保に関する取り組み ・変わる利用者像への対応と家族との関わり ・触法入所者への支援や自立準備ホームの運営 ・契約入所や高齢者の住まい確保に関する取り組み ・ICT の活用や生産性向上の取り組み ・BCP(自然災害・感染症)の策定と具体的な取組み ・入居者確保に関する取り組みや広報戦略 ・生活保護や生活困窮者自立支援法等に関する取り組み ・医療との連携や看取りの取り組み ・地域貢献・地域連携の取り組み ・職員の人材確保と育成・定着の取り組み

関ブロ東京大会 分科会テーマの都県市割当て一覧

	都県市名	依頼数	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
			認知症対応/ 医療・介護連 携、看取り	自立支援(リ ハビリテー ション・機能 訓練、口腔、 栄養)	経営、人材 確保・育成・ 定着	在宅・デイ	軽費老人 ホーム・ケア ハウス、養護 老人ホーム
1	茨城県	3	○			○	○(養護)
2	栃木県	3		○	○		○(軽費)
3	群馬県	3	○	○			○(軽費)
4	長野県	3	○		○	○	
5	埼玉県	3	○		○		○(養護)
6	さいたま市	1				○	
7	千葉県	3		○		○	○(軽費)
8	千葉市	2		○	○		
9	神奈川県	3	○		○		○(養護)
10	横浜市	2		○		○	
11	川崎市	1				○	
12	相模原市	1			○		
13	新潟県	3	○	○			○(軽費)
14	山梨県	3	○		○	○	
15	静岡県	3	○	○			○(養護)
16	東京都	3		○	○	○	
発表数計		40	8	8	8	8	8

★本紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールによりお送りください★

川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 老人福祉施設協議会担当／鈴木宛

FAX：044-739-8737 / メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

【令和6年12月11日（水）必着】

第60回関東ブロック老人福祉施設研究総会（東京大会） 分科会発表施設応募用紙

【発表テーマ】 ※下記のいずれかにチェックしてください。

- ☐ 分科会1：認知症対応/医療・介護連携、看取り
 ☐ 分科会2：自立支援
☐ 分科会3：経営、人材確保・育成定着
 ☒ 分科会4：在宅・デイ ※割当
☐ 分科会5：軽費老人ホーム・ケアハウス、養護老人ホーム

施設名	社会福祉法人セイワ 桜寿園地域包括支援センター	種別 ※○をつけてください
		特養・養護・軽費・ケアハウス・ デイ・その他（地域包括支援センター）
ふりがな	おおた はるか	発表者①職種・役職
発表者①氏名	太田 春香	社会福祉士・相談員
ふりがな	にしな あつこ	発表者②職種・役職
発表者②氏名	仁科 淳子	主任介護支援専門員・センター長
連絡先	TEL：044-287-2558	
	FAX：044-287-2577	
メールアドレス	oujyuen-hokatsu@adagio.ocn.ne.jp	
発表タイトル及び発表概要を下記にご記入ください。（現時点でのご予約で構いません。）		
【発表タイトル】 ワンストップ機能強化につなげるネットワークづくり		
【発表概要】 年々専門相談機関、専門職種の配置が多様になっているが、本来の専門性を十分発揮することが出来ず、従来から課題になっている“縦割り”の対応は解消されない。 ワンストップ機能を強化するために、専門機関同士のネットワーク強化、地域住民とのつながりを育むための地域包括支援センターの実践を発表する。 <div style="text-align: right;">《発表予定人数：2人》</div> 従来から課題になっている“縦割り”対応の解消を目指したワンストップ機能強化のための、専門機関同士のネットワーク強化、地域住民とのつながりづくりの実践。		

《お問い合わせ先》

川崎市社会福祉協議会 福祉部 施設事業推進課 担当／鈴木

電話：044-739-8717 FAX：044-739-8737

メール：shisetsu-dantai@cs-w-kawasaki.or.jp

最期の一瞬まで、
自分らしく生きられる
社会へ。

INFORMATION

全国老施協のご案内

Japanese Council Of Senior Citizens Welfare Service
Corporate Information



公益社団法人
全国老人福祉施設協議会

最期の一瞬まで、 自分らしく生きられる社会へ。

全国老人福祉施設協議会は、高齢者福祉施設のために、「研修事業」「調査研究事業」「普及啓発事業」「相談支援事業」という4つの柱で、会員施設やその現場で働く職員を支援しています。

そこで、全国老人福祉施設協議会は、介護現場で直面する課題の確実な解決に向け、専門的な知見を集め、高齢者福祉への総合的な支援を務めています。



全国老施協

九州ブロック

九社連老人福祉施設協議会
福岡県老人福祉施設協議会
(一社)福岡市老人福祉施設協議会
(公社)北九州高齢者福祉事業協会
佐賀県老人福祉施設協議会
長崎県老人福祉施設協議会
熊本県老人福祉施設協議会
大分県老人福祉施設協議会
宮崎県老人福祉サービス協議会
(一社)鹿児島県老人福祉施設協議会
沖縄県老人福祉施設協議会

中国ブロック

中国地区老人福祉施設協議会
鳥取県老人福祉施設協議会
島根県老人福祉施設協議会
岡山県老人福祉施設協議会
広島県老人福祉施設連盟
(公社)広島市老人福祉施設連盟
山口県老人福祉施設協議会
山口県デイサービスセンター協議会

中国

九州

近畿

四国

四国ブロック

四国老人福祉施設協議会
徳島県老人福祉施設協議会
香川県老人福祉施設協議会
愛媛県老人福祉施設協議会
高知県老人福祉施設協議会

構成事業所

全国約11,000の高齢者福祉施設が加入

施設サービス事業所

特別養護老人ホーム
養護老人ホーム
軽費老人ホーム
ケアハウス
高齢者生活福祉センター(生活支援ハウス)

居宅サービス事業所

老人デイサービスセンター
通所リハビリテーション
訪問看護ステーション
訪問介護事業所
短期入所生活介護事業所
短期入所療養介護事業所
療養通所介護事業所

地域密着型サービス事業所

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所
夜間対応型訪問介護事業所
地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護事業所
地域密着型特定施設入居者生活介護事業所
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)事業所
地域密着型通所介護事業所
認知症対応型通所介護事業所
小規模多機能型居宅介護事業所
看護小規模多機能型居宅介護事業所

高齢者向け住宅事業所

サービス付き高齢者向け住宅
有料老人ホーム

相談サービス事業所

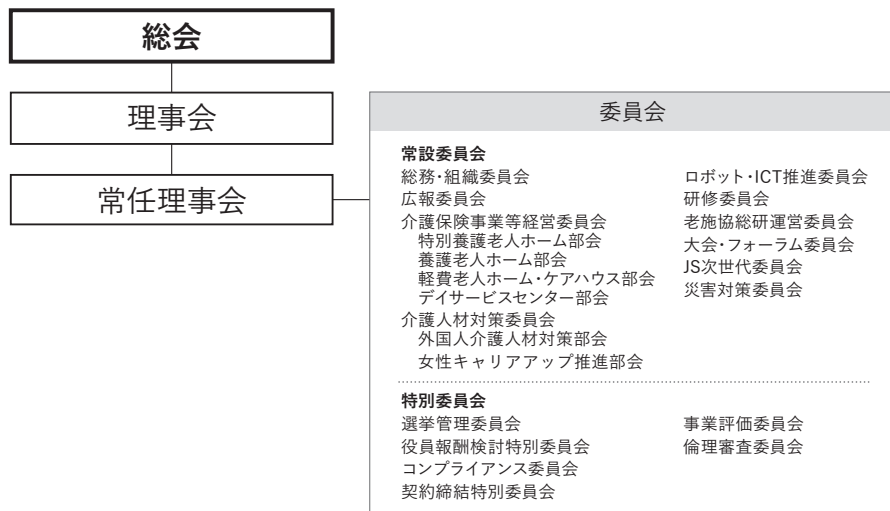
居宅介護支援事業所
在宅介護支援センター
地域包括支援センター

その他 事業所

老人保健施設
生活介護事業所
診療所



全国老人福祉施設協議会組織図





相談支援
事業

現場の視点から、 課題を解決していきます。

高齢者福祉・介護の現場を守る

社会保障政策に対する洞察と卓越した問題解決力によって、

「人」の能力を最大限に引き出し、介護現場に変革をもたらしながら、様々な分野からの

複合的な検討により、個人や組織、施設の要望に合わせた最適な解決策を見つけ出していきます。

現場
のために

専門的な
問題解決

人
のために

迅速な
危機対策

社会
のために

国・自治体
への提言

老施協.com

全国老施協を知っている人も、全国老施協を知らない人も、現場を支える高齢者福祉や介護に興味のある人が、この「アプリひとつ」をスマホにいれるだけで、全国老施協のすべての情報とつながることや、アプリ利用者同士で双方向の情報共有をすることができます。

災害派遣チーム(全国老施協DWAT)等

頻発する自然災害に対して、被災施設へ直接応援に行ける人材を養成し、災害派遣福祉チームの登録を全国各地に広め、設置することにより、迅速かつ効率的な災害派遣が行える取り組みをすすめています。会員のみなさまの施設等が被災した場合、登録された施設の職員で構成された専門職が、災害派遣福祉チームとして支援に入る事でスムーズで的確な支援が行うことができます。これにより、会員施設の相互支援体制が構築されることで、施設間の大きな安心感につながります。

JS-WEB110・JSリーガルサポート

介護報酬改定の解釈や国の実地指導において不明瞭な事柄についてのお問い合わせについて、厚生労働省等関係部局に照会をかけるなど、適切な解釈を伝えていきます。また、介護報酬による損害賠償等、高齢者福祉施設の様々な法的な問題を介護事故等に詳しい弁護士に相談を無償で行うことができます。

国・自治体へのアプローチ

特別養護老人ホームをはじめとする各種の施設や現場の課題を集約し、制度改正又は報酬改定についての現状として、社会保障審議会等に政策提言を行い、現場の課題を政策により解決するための活動を行っています。また、高齢者福祉分野における文書負担軽減等の継続的な業務改革に取組み、指定申請、報酬関係・指導監査等をはじめ、ローカルルールの解消に向け改善を促しています。



調査研究 事業

調査や研究を通して 現場を改善していきます。

現場のエビデンスを活かす

様々な問題や課題を内包しながら、厳しい競争に晒されている介護業界。

全国老協は、永年に渡り培ってきたネットワークと知見により、

社会保障制度、介護保険事業、社会福祉事業、人材育成や先進技術などの調査・分析で
高齢者福祉・介護施設をサポートしていきます。

現場
のために

社会保障
制度の提言

人
のために

先進的な
研究開発

社会
のために

地域福祉の
構築支援

収支状況等調査

昨今の社会保障制度改定により、年々、高齢者福祉施設の経営は厳しいものとなっています。そこで全国すべての施設へ調査を行い、所在地市区町村や周辺市区町村の措置状況を明らかにし、各施設が市区町村への対応方を検討できる情報を提供していきます。また、調査時に契約入所や消費税増税に関すること等々の質問を設けることで、現状を把握し、課題解決に向けた施設運営の一助となれる政策提言等を行うことができる調査を行います。

指導監査全国実態調査

自治体(各保険者)の指導の地域格差を是正していくために、実態を調査し、厚生労働省へ働きかけを行います。

各施設種別の課題等に関する調査

特養、デイ、養護、軽費・ケアハウス等の諸課題について調査研究事業を行い、事業継続やサービスの質向上に資する会員にとって有効な情報提供を行います。

医療介護連携、生産性向上等

実効性ある医療との連携体制構築に向けた協力医療機関等との連携の状況、生産性向上に向けた介護ロボット・ICTの導入状況等の調査を行い、政策提言のエビデンスとするとともに会員施設における実装を支援します。

国庫補助事業・公募助成事業

介護現場と連携した実践的調査研究を広く推進するとともに、老協総研の一層の充実強化と現場発信の調査研究を広く推進することを目的として調査研究事業における公募や国庫補助事業を実施します。



現場を担う人材を育成し、 施設運営を支えます。

プロフェッショナルとしての高齢者福祉や介護を向上する

「介護のあり方を考えたい」「人材の育成や確保を学びたい」「多角的に福祉経営を学びたい」といった、現場や管理に携わる方々からの要望に的確に応える研修や、地域共生社会の中で連携を進めるためのセミナーやミーティングを通じて専門人材を育成していきます。

現場
のために

専門人材の
育成

人
のために

価値のある
情報の提供

社会
のために

全国の
ネットワーク

経営戦略セミナー

介護報酬改定及び介護保険法制度改正等の経営上対応すべき事柄である基準変更等の詳細な研修会を開催しています。オンライン動画等での配信も行い、広く受講することが可能です。また、制度改定に促して、介護報酬改定レシピは各サービスの情報を体系的に整理されていることで、運営上活用しやすいものになります。

施設別・職種別・サービス別研修

介護現場のニーズの的確な把握と制度・施策の最新の動向を取り入れた研修の企画、立案、実施をしています。また同時に全国の参加者間での情報交換や共有の場を提供していて、モチベーションアップも可能にします。

全国老人福祉施設大会・永年勤続表彰

全国老協として取り組むべき諸課題の共通認識を図るとともに広く全国にアピールする場として、全国大会・研究会議を運営しています。会員施設・事業所に所属する施設長及び職員の方々の老人福祉、介護事業への功績を顕彰することで、その労苦に報いるとともに、これまでの職務への振り返りの機会を提供し、さらなる飛躍の契機としていただく場を設けています。

人材確保・定着に関する研修

施設・事業所のリーダー等に求められる役割・責任や、採用を成功させるための施設運営方法等介護人材の確保・定着を目的とした研修会を開催しています。また、次世代を担う人材の育成を行うため、新たな着眼点や発想力を得られる研修の機会を創出するほか、次世代を担う人材同士が、意見交換や議論を実施できるよう、全国的な人的ネットワーク構築を目指します。



地域に情報を発信し、 豊かな福祉社会を 実現していきます。

高齢者福祉や介護の充実が豊かな社会をつくる

蓄積してきた知見と的確な調査に基づき、

高齢者福祉・介護で国民が地域を超えて協力し支え合える環境を構築することで、

全国老施協は、持続可能な社会保障の実現に向けて、政策提言や普及啓発活動を行っています。

現場
のために

信頼性の高い
ニュース発信

人
のために

高齢者福祉の
現場との対話

社会
のために

高齢者福祉の
魅力発信

月刊老施協・JS-Weekly・老施協デジタル

高齢者福祉に関わる最新情報を月次、週次で会員・非会員のみなさまにお伝えしています。現場の課題に直結する国・団体の動向や研修会等の普及啓発を実施しています。2020年度より、より広い読者に読んでいただくためにインターネットでも配信を開始しました。また、国会、大手シンクタンク、報道機関等に情報交換を行います。

高齢者福祉施設の普及啓発

日本の社会保障制度は複雑化したため、国民にも経営者や従事者にも高齢者福祉施設の理解が進んでいません。そこで全国老施協では、各施設の普及啓発を進めています。例えば養護老人ホームや軽費老人ホーム・ケアハウスでは職員研修会を実施し、意見交換やグループワークを行っています。また、それぞれ紹介パンフレットと活用ハンドブックを作成・周知し、社会的認知度を高め、各施設の入居者増加を図っています。

介護作文フォトコンテスト

高齢者福祉や介護に関わる国民のみなさまを対象に、日常の介護において得られる「楽しさ」「深さ」「広さ」などを、作文やフォト等を通して、福祉・介護現場の魅力を発信しています。

公式ソーシャルメディア

高齢者福祉や介護に関わる国民のみなさまを対象に、有益でスピーディな制度の動向や研修会等の情報を伝えることを目的に配信しています。

高齢者福祉とのあゆみ

最期の一瞬まで、自分らしく生きられる社会へ。

2020

●介護報酬改定(+1.59%)

2010

●介護報酬改定(+0.54%)

●介護報酬改定(-2.27%)

●介護報酬改定(+1.2%)

●介護報酬改定(+3.0%)

●介護報酬改定(-0.5%)

●介護報酬改定(-2.3%)

2000

2000年
●社会福祉基礎構造改革
(介護保険制度・社会福祉法)

●ゴールドプラン21
●介護保険法成立
●高齢社会対策基本法
●新ゴールドプラン・
高年齢者雇用安定法改正定年
●社会福祉関係八法改正

1990

●高齢者保健福祉推進
十か年戦略(ゴールドプラン)

●社会福祉士・介護福祉士法
●老人保健法改正
●年金制度・医療法改正
●社会福祉事業法改正・
老人保健制度

1980

●新経済社会7カ年計画

1970

●福祉元年(老人医療無償化)
●老人福祉法改正
●福祉施設緊急整備5カ年計画

1960

1963年 ●老人福祉法

●国民皆保険・国民皆年金
●国民年金法
●国民健康保険法

1950

●社会福祉事業法
●生活保護法

1940

●児童福祉法
●日本国憲法・旧生活保護法
●厚生省創設・社会事業法・
旧国民健康保険法

1930

●救護法施行
●救護法成立

1874

●戊申詔書
●不良住宅地区改良法
●恤救規則

社会保障制度の歴史

●2019年 老施協ビジョン2035公表

●2009年 公益社団法人全国老人福祉施設協議会設立(4月1日)

●2006年 社団法人全国老人福祉施設協議会設立(6月29日)

●2001年 全国デイサービスセンター協議会と合併し、
新全国老人福祉施設協議会体制を確立(4月)
老施協総研設立(8月24日)

●グループホームの制定

●ケアハウスの制定

●介護老人保健施設の制定

●デイサービス事業の制定

●特別養護老人ホーム
養護老人ホーム
軽費老人ホームの制定

高齢者福祉施設の歴史

1993年

●「老人福祉施設倫理綱領」の公表
●全国デイサービスセンター協議会

1968年

●「老施協通信」第1号発行

1966年

●全国養老事業協会を発展的に
解組し、全社協・全国老人福祉施設
協議会へ一本化

1962年

●全国社会福祉協議会内に
老人福祉施設協議会設置

●全国社会福祉協議会設置
●中央社会福祉協議会設置

1932年

●全国養老事業協会設立
●社会事業会

1925年

●第一回全国養老事業大会
●中央慈善協会

全国老人福祉施設協議会の歴史



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-1 塩崎ビル7階

TEL:03-5211-7700 FAX:03-5211-7705 E-mail:js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

<https://www.roushikyo.or.jp>





全国老施協は、
高齢者福祉・介護の現場の声を国に届け、
現場を強力にサポートします。

主な入会メリット

1 高齢者福祉・介護に関する
最新情報と解説

2 高齢者福祉・介護の
制度政策要望の実現

3 施設経営に対する支援

4 現場職員に対する支援

詳しくは裏面をご覧ください

全国老施協は、全国11,000の施設・事業者から構成される高齢者福祉・介護関係で日本最大の公益法人です。
高齢者福祉・介護の未来をひらいていくためには、あなたの声を仲間と一緒に国に届ける必要があります。



公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
Japanese Council of Senior Citizens Welfare Service

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-1 塩崎ビル7階

TEL 03-5211-7700 FAX 03-5211-7705

50

<https://www.roushikyo.or.jp/>



メリット 高齢者福祉・介護に関する最新情報と解説

高齢者福祉・介護の政府の制度政策の動向や介護現場の情報について、他のどこよりも早く把握し、わかりやすい専門的解説をつけて会員限定で提供しています（月刊誌・メールマガジン・ホームページ・SNSなど）。

最近では、新型コロナ、介護報酬改定、LIFE関係の情報について厚労省の担当者からダイレクトに情報を集め、最も詳しく最も早くお伝えしています。

メリット 高齢者福祉・介護の制度政策要望の実現

高齢者福祉・介護の制度政策に関する現場の要望をきめ細かく把握し、厚労省との太いパイプを通じて国に伝えて実現させています。

最近では、介護職員に対する慰労金の支給や令和3年度介護報酬改定による0.7%アップは、全国老施協の要望の成果です。あなたの声が国にストレートに届きます。

メリット 施設経営に対する支援

① 新型コロナの感染防護用品の提供など

新型コロナの感染防護用品の確保難の中で、これを確保して会員に提供いたしました。そのほか、感染発生施設への他施設からの応援体制の支援、見舞金の支給、自然災害発生施設への応援の支援なども進めています。

② 経営相談

介護保険制度等の各種制度や経営問題についてWeb・電話・メールで相談を受け付け、専門家や厚労省から回答を得ることができます。特に、LIFE、新型コロナの検査、法律問題については特設窓口を設けています。デイサービス、養護、軽費・ケアハウスの経営ノウハウの提供にも力を入れています。

③ 研修会・セミナー

介護保険制度上受講が必須となる研修をはじめ、介護報酬の加算算定のノウハウ提供、若手経営者の育成支援、現場介護職員の専門性を高めることなどを目的とした各種研修を実施しています（動画ライブ型、動画オンデマンド配信型、集合型があります）。

④ 介護人材確保対策

介護人材の確保を目的とした、施設管理者向けの人材確保ノウハウのセミナーや、離職した介護職の職場復帰プログラムなど各種のサービスを提供しています。

⑤ 各種調査研究・実証とその成果の提供

認知症BPSDに対する専門的対応、介護現場でのICT導入、外国人介護人材の受け入れ、介護報酬加算の算定、LIFEへの対応など、介護現場で必要とする各種のノウハウ・情報等について、各種調査研究・実証を行って、他では得られない実践的知見を会員に提供しています。

メリット 現場職員に対する支援

現場職員の方の専門性向上、メンタルヘルス、相互コミュニケーションのための各種サービスを実施しています。

ケアの専門性・質の向上のためのセミナーや会計実務研修などの研修、LINEを使った専門家によるメンタル相談、現場職員が相互にコミュニケーション・情報交換ができるスマホアプリの開発・提供などをすすめています。

会員規程

(目的)

第1条 この規程は、公益社団法人全国老人福祉施設協議会（以下「本会」という。）定款第3章の規定に基づき、会員が本会に納付する会費の額及び徴収方法について定めるほか、会員管理に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(会員の資格)

第2条 本会の会員及び賛助会員は、定款第5条のとおりとする。

(正会員)

第3条 正会員は、正会員により組織される都道府県及び政令指定都市の会（以下「都道府県等組織体」という。）に所属するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、入会を希望する者が都道府県等組織体の規定により、当該都道府県等組織体に所属できない場合は、当該希望者の属する法人以外の法人に属する正会員2人の推薦により本会に所属することができる。

3 次の事項を行うためには正会員でなくてはならない。

- (1) 定款第12条第4項によって代議員選挙（予備代議員選挙を含む。）へ立候補すること
- (2) 定款第12条第5項によって代議員の選挙を行うこと及び同条第9項の予備代議員の選挙を行うこと
- (3) 役員選任規程第5条によって会長選挙への立候補をすること
- (4) 役員選任規程第6条によって副会長候補者となること
- (5) 委員会等規程第6条によって委員会の委員になること（ただし、同条ただし書きに該当する場合を除く。）

4 正会員は第14条第1項の本会のサービスを利用することができる。

(賛助会員)

第4条 賛助会員は、本会の運営には直接関与しないが、本会の事業目的に賛同し、事業の充実及び推進のために入会した者とする。

2 賛助会員は第14条第2項の本会のサービスを利用することができる。

(会費)

第5条 正会員及び賛助会員の会費は、別表のとおりとする。

2 会費は、年会費とする。ただし、年度途中で入会又は退会した場合、次のとおりとする。

入退会の時期	4～9月（上半期）	10～3月（下半期）
1. 入会	年会費全額	年会費×1/2
2. 退会	年会費×1/2	年会費全額

- 3 前2項に定める会費のうち、用途を特定しないで徴収した会費については、少なくともその2分の1を公益目的事業に充てなければならない。ただし、施行日前に徴収した会費は、この限りでない。
- 4 本会は、定款第11条の規定により、正会員が既に納入した会費、その他の拠出金品は、過誤納による場合のほかこれを返還しない。

(会費算定の基準日)

第6条 会費算定の基準日は、毎年4月1日とする。

(会費の納入方法及び納期)

- 第7条 会員は、原則として毎年5月末日までに預金口座振替により会費を納入しなければならない。ただし、入会初年度については、第2項に規定する振込により会費を納入することとする。
- 2 会員は、前項本文の預金口座振替を希望しない場合、請求書受領後、2か月以内に振込により本会の銀行口座又は郵便振替口座に会費を納入するものとする。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、本会が正会員の会費徴収の事務を都道府県等組織体に依頼する場合には、当該正会員は、当該都道府県等組織体を通じて、原則として毎年5月末日までに会費を納入するものとする。

(入会の申込み)

- 第8条 正会員として入会を希望する者は、本会ホームページから入会登録情報を入力するとともに、都道府県等組織体に入会申込を行い、当該都道府県等組織体を經由して記入押印した入会申込書(様式1)を本会へ提出するものとする。なお、ホームページを利用できない場合は、入会申込書を提出することで足りる。
- 2 前項の規定にかかわらず、第2条第2項に該当する者は、正会員2人の推薦書(様式2)を添付のうえ記入押印した入会申込書(様式1)を本会へ直接提出するものとする。
 - 3 賛助会員として入会を希望する者は、記入押印した入会申込書(様式3)を本会へ直接提出するものとする。
 - 4 本会は、入会申込書を受領した後、仮承認の会員登録を行い、会員番号等を入会希望者に送付する。その後、最初に開催する理事会で承認され次第、正式に入会を承認する。

(契約の成立)

- 第9条 会員契約は、会員が前条の方法で申込みを行い、入会承認通知書(正式承認)を受領した時点で成立する。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、契約は無効とする。
- (1) 当該施設又は事業所の代表者又は開設準備者以外の第三者が申込を行っていた場合
 - (2) 申込みの際に虚偽の届出をした場合
- 2 入会日は、本会が入会申込書を受領した日の属する月の翌月1日とする。
 - 3 第1項の規定にかかわらず、入会申込書受理通知書(仮承認)の到着時から、第14条の

本会のサービスを利用することができる。

(登録内容の変更)

第10条 会員は登録内容に変更が生じた場合は、速やかに本会あてに変更の旨を連絡することとし、変更しないことについて発生した不利益は会員の責任とする。

2 変更の連絡は、原則として、本会ホームページから変更情報を入力することにより行う。

3 前項の規定にかかわらず、ホームページを利用できない場合は、記入押印した変更届（様式4又は様式4の2）を本会へ提出するものとする。

(退会等)

第11条 会員は、退会する場合、原則として30日前までに都道府県等組織体を經由して記入押印した退会届（様式5又は様式5の2）を本会に提出しなければならない。ただし、当該都道府県等組織体に入会していないか又は当該都道府県等組織体に入退会事務を委託していない場合の会員等については、本会へ直接提出するものとする。

2 前項による退会日は、本会が退会届を受領した日の属する月の末日とし、会員は、その翌日に会員資格を喪失する。ただし、会員が退会を希望する日が本会が退会届を受理した日より後の場合は、当該希望日の属する月の末日を退会日とする。

3 会員は、定款第8条第1項第3号又は第4号の事由により会員資格を喪失する場合、様式5を様式6に代えて第1項の手順により速やかにその旨を本会に届出なければならない。ただし、資格喪失届の提出がないときは、後見開始若しくは保佐開始の審判を受けたとき又は死亡し、若しくは失踪宣告を受けたときから、当該会員の後任者が会員資格を引き継ぐものとする。

4 本会は、会員が定款第8条第1項第5号又は第7号に該当すると判断した場合、文書により通告し、本契約を解約するものとする。

(所属を退職等した場合の会員資格の引き継ぎ)

第12条 会員が定款第8条第1項第2号ないし第4号の事由に該当して会員資格を喪失する場合、会員の所属する施設・事業所内の後任者（以下、「後任者」という。）は定款第8条第2項により会員資格を引き継ぐことができることから、本会はこの規定を積極的に周知するとともに、定款第8条第1項第2号に該当する会員は後任者に対して会員資格の引き継ぎを行うよう努めるものとする。

2 後任者が会員資格を引き継ぐことを了承した場合、会員の退会、会員資格喪失及び後任者の新規入会の手続きを省略し、会員又は後任者が正会員変更届（様式4）によって本会に届出ることにより足りるものとする。

(休会)

第13条 正会員において、災害等の不可抗力によってその施設・事業所の事業を一時期休止せざるを得ないなど特別な事情が認められる場合、当該正会員からの申し出に基づいて、常

任理事会においてその休会を承認することができる。

- 2 第1項の申し出は任意の様式により都道府県等組織体を經由して行うものとする。
- 3 休会は、第1項によって会長が承認した休会日から、当該年度の3月31日まで、又は休会中の者から前項の規定に準じて復帰の申し出がなされこれによって会長が承認した復帰日の前日までとする。ただし会長は、復帰の申し出がされない場合であって第1項の特別な事情が継続していると認める場合は、1年度単位で休会の延長を承認することができる。
- 4 休会の間の会費は免除する。ただし年度の途中で休会又は復帰した場合の会費については、承認された休会日又は復帰日をそれぞれ退会日又は入会日とみなして第5条第1項及び第2項を適用した場合の額とする。
- 5 休会の間は、第14条の本会のサービスを利用することができる。なお、第3条第3項各号の事項を行うことはできない。

(サービス内容)

第14条 本会は、正会員に次のサービスを提供する。ただし、施設種別等により、サービスの提供範囲、内容等が異なる場合がある。

- (1) 機関誌その他刊行物の送付
- (2) メールマガジンの送信
- (3) 本会ホームページ正会員用ページの閲覧
- (4) 郵便、FAX、電子メール等による本会活動、老人福祉施策等の情報提供
- (5) 本会が実施する調査・研究事業に関する資料、報告書等の提供
- (6) 本会が主催する会議、研修会、全国大会等への参加、研修資料の提供
- (7) 本会が実施する相談支援
- (8) 本会の収益事業等（共益事業を含む。）に該当する物品の販売等のサービス

- 2 本会は、賛助会員のうち法人会員に対して次の第1号から第7号のサービスを提供する。また、賛助会員のうち個人会員に対しては第1号から第3号のサービスを提供する。

- (1) 機関誌その他刊行物の送付
- (2) メールマガジンの送信
- (3) 本会ホームページ賛助会員用ページの閲覧
- (4) 本会ホームページバナーなど各種の広報媒体における会員価格での広告掲載
- (5) 本会ホームページの賛助会員広告ページにおける製品・サービス紹介
- (6) ダイレクトメール用正会員宛名シール（住所及び施設名を記載する。以下同じ。）の提供（年1回程度）
- (7) 本会正会員との情報交換会等への出席

(会員規約・サービス内容の変更)

第15条 本会は、会員規程及びサービス内容を本会ホームページにおいて公開する。会員規程及びサービス内容を追加・削除・変更した場合には、本会ホームページにおいて告知す

る。

(権利の譲渡等の禁止)

第16条 会員は、その権利を第三者に譲渡・貸与してはならない。

(秘密保持)

第17条 本会は、会員に関する情報及びサービスの提供上知り得た情報を他に開示、漏洩せず、サービスの提供に必要な範囲を超えて使用しない。ただし、相互の連絡及び事業の調整を行うため、都道府県等組織体に対し情報を提供することがある。

2 前項に関わらず、本会は、正会員の同意のうえ、賛助会員に対して、第14条第2項(6)に定める正会員宛名シールの提供を行う。

3 本会は、会員情報のうち、個人情報については、別に定める規程に基づき管理する。

(禁止事項)

第18条 会員は、次に定める行為をしてはならない。

- (1) 本会又は他者の著作権、商標権等の知的所有権を侵害する行為、又は侵害する恐れのある行為
- (2) 他者の財産、権利、プライバシー等を侵害する行為、又は侵害する恐れのある行為
- (3) 他者を差別、誹謗中傷し、又は名誉若しくは信用を毀損する行為
- (4) 詐欺等の犯罪に結びつく行為、又はその恐れのある行為
- (5) 本会に損害を与える行為、又はその恐れのある行為
- (6) 本会の定款及び規程等に定められた意思決定や業務執行の手続きに反する行為
- (7) 他者になりすましてサービスを利用、又は情報提供する行為
- (8) 本会の許可を得ず、本会の事業と競業、又は競業する恐れのある事業を行う目的で、本会が提供する情報を使用すること

(契約の期間)

第19条 契約期間は入会日より当該年度の3月31日までとする。ただし、契約期間満了の30日前までに会員から退会届の提出又は本会から解約通知書の送付がない限り、以後毎年所定の会費を支払うことにより契約が継続するものとする。

(損害賠償)

第20条 本会は、会員が第18条の禁止事項に違反し、又はその他の事由により、本会に損害を与えたときは、会員に対しその賠償を求めることができる。

(免責)

第21条 本会は、会員がサービスを利用することにより、又は利用できないことにより第三者との間で生じたトラブル等に関して一切の責任を負わないものとする。

(規程の変更)

第22条 この規程の改廃は、理事会の議を経、総会の承認を得て行うものとする。

附 則

- 1 この規程は、本会の設立許可のあった日（平成 18 年 6 月 29 日）から施行する。
- 2 本会設立初年度については、第 4 条の規定にかかわらず、入会金の徴収を行わないものとする。

附 則

この規程は、平成 21 年 1 月 1 日から施行する。ただし、第 1 条にある「公益社団法人全国老人福祉施設協議会」は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第 106 条第 1 項に定める公益法人の設立の登記を行った日から施行するものとし、それまでの間は「社団法人全国老人福祉施設協議会」と読み替えるものとする。

附 則

この改正規程は、平成 22 年 1 月 13 日から施行する。

附 則

この規程の変更は、平成 25 年 12 月 4 日から施行する。

附 則

この規程の変更は、平成 26 年 6 月 10 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 2 年 10 月 28 日より施行する（ただし、各様式の改正は令和 3 年 1 月 1 日より適用し、別表の改正後の会費額は令和 3 年 4 月 1 日より適用する）。

附 則

この規程の変更は、令和 4 年 6 月 13 日から施行する（ただし、各様式及び別表の改正後の会費額は令和 4 年 7 月 1 日より適用する）。

会費額一覧表

別表

○正会員

1. 施設会員	年会費	備考
特別養護老人ホーム 有料老人ホーム	1床1,350円	会費額＝@1,350円×定員数

定員	養護老人ホーム	軽費老人ホーム ケアハウス	老人保健施設 介護療養型医療施設
小規模(～39名)	¥27,000	¥14,400	¥16,200
小規模(40～49名)	¥27,000	¥19,800	〃
50	¥32,400	¥25,200	〃
51～60	¥35,100	¥27,000	〃
61～70	¥37,800	¥28,800	〃
71～80	¥40,500	¥30,600	〃
81～90	¥43,200	¥32,400	〃
91～100	¥45,900	¥34,200	〃
101～110	¥48,600	¥36,000	〃
111～120	¥51,300	¥37,800	〃
121～130	¥54,000	¥39,600	〃
131～140	¥56,700	¥41,400	〃
141～150	¥59,400	¥43,200	〃
151～200	¥72,900	¥52,200	〃
201～250	¥86,400	¥61,200	〃
251～300	¥99,900	¥70,200	〃
301～350	¥113,400	¥79,200	〃
351～	¥126,900	¥88,200	〃

2. 事業所等会員	年会費		年会費
老人デイサービスセンター	¥18,000	保護施設	¥18,000
通所リハビリテーション事業所	¥18,000	身体障害者デイサービス事業	¥18,000
短期入所生活介護事業所(※)	1床900円	その他の障害者施設・事業所	¥18,000
短期入所療養介護事業所	1床900円	保育所	¥18,000
訪問介護事業所	¥18,000	その他の児童母子福祉施設・事業所	¥18,000
訪問入浴介護事業所	¥18,000	その他の社会福祉施設	¥18,000
訪問看護事業所	¥18,000	幼稚園	¥18,000
訪問リハビリテーション事業所	¥18,000	病院	¥18,000
居宅療養管理指導事業所	¥18,000	診療所	¥18,000
高齢者生活福祉センター(生活支援ハウス)	¥18,000		
認知症対応型共同生活介護事業所	¥18,000		
小規模多機能型居宅介護事業所	¥18,000		
夜間対応型訪問介護事業所	¥18,000		
認知症対応型通所介護事業所	¥18,000		
居宅介護支援事業所	¥18,000		
地域包括支援センター	¥18,000		
在宅介護支援センター	¥18,000		
その他の老人福祉施設・事業所	¥18,000		

(※)については、1の施設に併設されている場合、施設会費に上乗せになります。

○賛助会員

1. 賛助会員	年会費	備考
法人会員	¥100,000	
個人会員	¥5,000	



令和6年12月配信 福祉職員向け研修のご案内

地域の明日をささえる
福祉の研修



社会福祉法人川崎市社会福祉協議会
総合研修センター

〒210-0024

川崎市川崎区日進町5-1

川崎市複合福祉センター ふくふく2階

TEL : 044-223-6509 FAX : 044-223-6598

開所時間

火曜日～土曜日 9:00～17:00 (受付8:30～)

※日曜日・月曜日・祝祭日・年末年始はお休みとなります



日	月	火	水	木	金	土
休	休	●	●	●	●	●

第4回川崎市認知症介護基礎研修

現在働かれている方はもちろん、これから働かれる方も受講できます。

※令和6年度より、無資格で就労されている介護職員は本研修の受講が義務化されました。

日 時: 令和 7年 1月17日 (金) 9:00 ~ 16:30

定 員: 30名 (定員を超える申込があった場合は抽選により決定いたします)

受講料: 4,000円【テキスト(1,000円+税)は各自事前購入】

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=66

法定研修



お申込み

「暮らしの場における認知症高齢者の支援」

～看取りに向けた連携・チームケア～

講 師 平原 佐斗司氏

東京ふれあい医療生協

梶原診療所 訪問診療センター

日 時: 令和 7年 1月22日 (水) 13:30 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=71

研修番号 A-16



お申込み

外国人の利用者支援に役立つ、 多文化理解と伝わりやすい日本語

講師: 多文化高齢者ネットかながわ
(TKNK)メンバー

日 時: 令和 7年 1月30日 (木) 13:30 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=70

研修番号 A-43



お申込み

障害者の意思決定支援

～見えてきた課題と解決策を考える～

日 時: 令和 7年 2月 1日 (土) 13:30 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=35



講 師 鈴木 敏彦氏

淑徳大学 副学長

研修番号 A-08



お申込み

統合失調症の基礎知識

～福祉だからできる支援～

日 時: 令和 7年 2月13日 (木) 14:00 ~ 16:30

定 員: 40名 (先着順)

受講料: 2,000円

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=41



聖マリアンナ医科大学

神経精神医学教室

精神保健指定医 阿久津 哲氏

研修番号 A-09



お申込み



044-223-6509

受付 / 8:30 ~ 17:00 開所 / 火曜 ~ 土曜
(祝日を除く)

研修に関する詳しい情報は内容にアクセスまたは電話にてお問合せください。

第5回川崎市認知症介護基礎研修

現在働かれている方はもちろん、これから働かれる方も受講できます。

※令和6年度より、無資格で就労されている介護職員は本研修の受講が義務化されました。

日 時: 令和 7年 2月15日 (土) 9:00 ~ 16:30

定 員: 30名(定員を超える申込があった場合は抽選により決定いたします)

受講料： 4,000円 【テキスト(1,000円+税)は各自事前購入】

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=67

法定研修



お申込み

支援に「難しさ」を感じる人へのかかわり方

～精神・発達障害の理解を深める～

講師 石井 美緒先生
(精神科医)

川崎市健康福祉局

総合リハビリテーション推進センター

こころの健康課 担当課長

日 時: 令和 7年 2月 27日 (木) 13:30 ~ 16:30

定員：40名（先着順）

受講料：2,000円

内 容: https://www.shakyo-kensyu.jp/kawasaki/kensyu_detail.php?id=68

研修番号 A-04



お申込み



令和6年12月吉日

全国社会福祉協議会 中央福祉人材センター 御中

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
ライフ・バリュー・クリエイションユニット
ユニット長 矢野 勝彦

令和6年度厚生労働省委託事業
介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業

「介護現場における生産性向上推進フォーラム」のご案内と周知のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社は厚生労働省事業「介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業」を受託し事業を進めています。当該事業の一環として、介護サービス事業者および自治体のご協力のもと、「介護現場における生産性向上推進フォーラム」を開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

本フォーラムでは、介護現場における生産性向上の取組を更に普及し、生産性向上の取組に対する気運を盛り上げることを目的として、生産性向上の取組を実施する介護サービス事業所による講演及び報告を中心に、生産性向上に係る政策動向の紹介、自治体による生産性向上の取組に対する支援事業の報告、生産性向上の取組を実施するためのポイントの解説、介護ロボット・ICT機器のご紹介等を行います。

お忙しいところ誠に恐縮でございますが、本事業およびフォーラムの趣旨にご理解賜り、貴下の支部・会員及び関係者の方々等に本フォーラムの周知及び参加勧奨にご協力賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

【開催概要】

1. 日程 令和7年3月12日（水）、3月18日（火）
※地域により日程が異なります。詳細は「開催要綱」及び「チラシ」をご参照ください。
2. 実施方法 現地及びWEBのハイブリッド形式
3. 主な対象者 介護現場における生産性向上にご関心のあるすべての方
※申込方法やプログラム（案）は「開催要綱」及び「チラシ」をご参照ください。

以上

【介護現場における生産性向上推進フォーラム事務局】

（内容に関するお問い合わせ先）

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

ライフ・バリュー・クリエイションユニット

TEL：03-6261-7534（平日 10:00～17:00）

E-mail：kaigoseisansei-seminar@nttdata-strategy.com

（お申込みに関する問い合わせ先）

株式会社日刊工業新聞社 総合事業本部事業推進部

TEL：03-5644-7487（平日 10：00～17：00） E-mail：kaigo@nikkan.tech

介護現場における生産性向上推進フォーラム 開催要綱

1. 開催概要

全世代型社会保障構築会議における「介護の生産性・質の向上(ロボット・ICT活用、協働化・大規模化の推進等)」や令和6年度介護報酬改定における「良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり」に関する加算等、介護現場における生産性向上への注目が更に高まっている中、本フォーラムでは、生産性向上に関する最新の政策及び先進的な取組を共有することで、介護サービス事業所における取組の実施ならびに自治体等の取組の支援を促し、介護分野における生産性向上の取組に対する気運を盛り上げることを目的として実施いたします。なお、本フォーラムは全て会場とWebのハイブリッド形式で開催いたします。

開催期間	2025年3月12日(大阪)、2025年3月18日(東京)
開催地域	<p>介護現場における生産性向上推進フォーラムを東京、大阪の2会場で開催します。</p> <p>※開催地の詳細は「2. 開催日時」をご覧ください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪会場(開催地:大阪府大阪市) ・東京会場(開催地:東京都千代田区)
開催方法	・ハイブリッド開催(会場とオンライン)
対象者	<p>【対象者】 介護現場における生産性向上にご関心のあるすべての方</p> <p><想定する対象者について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護事業所の「経営者層」及び「介護従事者」 <ul style="list-style-type: none"> ※ 経営者層:介護現場を取り巻く環境、介護テクノロジーの導入、介護人材の定着・確保、介護サービスの質向上等に興味関心があり、介護現場の運営に意思決定ができる方 ※ 介護従事者:介護現場でのケアの質向上、ICTの効果的な活用や働きやすい職場環境作りに興味関心がある方 ・自治体の職員 <ul style="list-style-type: none"> ※ 自治体職員:生産性向上に係る関係部署にいらっしゃる方 ・介護生産性向上総合相談センター等の支援機関の職員 ・介護業界団体の職員 等
定員	<p>会場参加 …各会場300人</p> <p>オンライン …各会場3,000人</p>
費用	無料
申込方法 申込期限	<p>「2. 開催日時・申込」をご覧ください。</p> <p>※ 期日までにお申込みができない場合は、事務局までご相談ください。</p>
セミナー 当日 参加方法	<p>【会場】 ・直接会場にお越しください。</p> <p>【オンライン】 ・「Zoom」での開催を予定しています。 ・申込者には、後日、お申し込みいただいたメールアドレス宛に、招待URLをお送りします。 ・開催時刻の10分前になりましたら、招待URLをクリックしてご参加ください。 ・招待URLはセミナー開催時刻の30分前よりご入室可能です。</p>

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者には後日実施する「事後アンケート」にご回答いただきます。詳細は、参加申込後にご案内いたします。 ・本セミナーに関し、ご不明点がある方は下記【お問合せ窓口】までご連絡ください
お問合せ 窓口 (事務局)	「介護現場における生産性向上フォーラム」運営事務局 TEL:03-5644-7487(電話対応時間 平日 10:00~17:00) E-mail: kaigo@nikkan.tech

「フォーラム告知サイト」

URL: <https://kaigo-seisansei.com/forum2024/>



二次元バーコード(フォーラム告知サイト)

2. 開催日時及び申込み期限

- 下記のいずれかの開催回にお申し込みください。

地域	開催場所	開催日時	申込期限
大阪会場	コングレコンベンションセンター (大阪市北区大深町 3-1 グランフロント大阪 北館 B2F) URL: https://www.congre-cc.jp/access/	2025年3月12日 (水) 13:00-17:30	2025年3月7日 (金) 17:00
東京会場	ベルサール半蔵門 (東京都千代田区麹町 1-6-4 住友不動産半蔵門駅前ビル 2F ベルサール半蔵門) URL: https://www.bellesalle.co.jp/shisetsu/iidabashi/bs_hanzomon/	2025年3月18日 (火) 13:00-17:30	2025年3月14日 (金) 17:00

3. 申込方法

下の「参加申込フォーム」よりお申し込みください。

「参加申込フォーム」

URL: https://biz.nikkan.co.jp/form/ntt_forum/



二次元バーコード(参加申込フォーム)

- ※ 参加申込フォームの送信ができない場合は、事務局までご連絡ください。
- ※ 参加申込フォームへのアクセスが難しい場合は、URL を Web ブラウザのアドレスバーにコピー & ペーストを行うことでアクセスできる可能性があります。または二次元バーコードを読み取りください。

4. プログラム(予定)

【大阪会場】

項目	時間	内容
開場	12:00	介護現場の生産性向上に効果があると認められる機器・ソフトウェアの出展が御覧いただけます。
開会挨拶		
1. 政策動向説明	13:00-13:15 (15分)	主催者挨拶 厚生労働省
2. 講演 生産性向上の取組の考え方とポイント	13:15-13:45 (30分)	生産性向上の取組の考え方とポイント 株式会社 TRAPE 代表取締役社長 鎌田 大啓氏
3. 企業による機器紹介	13:45-14:05 (20分)	介護テクノロジー開発企業による機器紹介 (出展企業へのインタビュー)
休憩	10分	—
4. 講演 介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰 受賞事業所による取組報告	14:15-15:00 (45分:各事業所 15分程度)	「介護職員の働きやすい環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」の受賞事業所(登壇事業所) ・特別養護老人ホーム六甲の館 ・特別養護老人ホームゆめあまみ ・特別養護老人ホームかるべの郷さざんか
5. ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組事業所の発表	15:00-15:30 (30分:各事業所 15分程度)	ケアプランデータ連携システムの取組事業所による取組紹介 ・ゆうらいふ 居宅介護支援事業所 ・株式会社279
6. 登壇者による パネルディスカッション	15:30-16:10分 (40分)	登壇者によるパネルディスカッション (厚生労働省、表彰事業所、ケアプランデータ連携事業所)
7. 企業による機器紹介	16:10-16:30 (20分)	介護テクノロジー開発企業による機器紹介 (出展企業へのインタビュー)
休憩	10分	—
8. 都道府県等の取組支援状況報告	16:40-17:20 (40分)	都道府県等における取組支援の具体例や支援におけるポイントをシンポジウム形式で共有
9. 事務連絡	17:20-17:30 (10分)	フォローアップセミナーの取組報告 事務連絡(事務局)
閉会挨拶		
閉場	18:00	介護現場の生産性向上に効果があると認められる機器・ソフトウェアの出展が御覧いただけます。

※ 会場には、介護ロボットや ICT 機器等の展示・体験スペースを設ける予定です。

【東京会場】

項目	時間	内容
開場	12:00	介護現場の生産性向上に効果があると認められる機器・ソフトウェアの出展が御覧いただけます。
開会挨拶		
1. 政策動向説明	13:00-13:15 (15 分)	主催者挨拶 厚生労働省
2. 講演 生産性向上の取組の考え方とポイント	13:15-13:45 (30 分)	生産性向上の取組の考え方とポイント 株式会社 TRAPE 代表取締役社長 鎌田 大啓氏
3. 企業による機器紹介	13:45-14:05 (20 分)	介護テクノロジー開発企業による機器紹介 (出展企業へのインタビュー)
休憩	10 分	—
4. 講演 介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰 受賞事業所による取組報告	14:15-15:15 (60 分:各事業所 15 分程度)	「介護職員の働きやすい環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」の受賞事業所(登壇事業所) ・特別養護老人ホーム 六甲の館 ・特別養護老人ホーム悠西苑 ・介護付きホームメッツ長岡 ・ヤザキケアセンター紙ふうせん
5. ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組事業所の発表	15:15-15:30 (15 分)	ケアプランデータ連携システムによる取組事業所による取組紹介 ・株式会社トライドマネジメント
6. 登壇者による パネルディスカッション	15:30-16:10 分 (40 分)	登壇者によるパネルディスカッション (厚生労働省、表彰事業所、ケアプランデータ連携事業所)
7. 企業による機器紹介	16:10-16:30 (20 分)	介護テクノロジー開発企業による機器紹介 (出展企業へのインタビュー)
休憩	10 分	—
8. 都道府県等の取組支援状況報告	16:40-17:20 (40 分)	都道府県等における取組支援の具体例や支援におけるポイントをシンポジウム形式で共有
9. 事務連絡	17:20-17:30 (10 分)	フォローアップセミナーの取組報告 事務連絡(事務局)
閉会挨拶		
閉場	18:00	介護現場の生産性向上に効果があると認められる機器・ソフトウェアの出展が御覧いただけます。

※ 会場には、介護ロボットや ICT 機器等の展示・体験スペースを設ける予定です。

5. 出展企業(予定)

NO	企業名	機器名	分野
1	マッスル株式会社	ROBOHELPER SASUKE	移乗支援
2	シーホネンス株式会社	リコロール	
3	株式会社 FUJI ※1	Hug	
4	パナソニック株式会社	歩行トレーニングロボット	移動支援
5	DFree 株式会社	排泄予測デバイス DFree	排泄支援
6	株式会社金星	ピュアット	入浴支援
7	積水ホームテクノ株式会社 ※2	ウェルスリフトキャリーチルト (WLC-T)	
8	コニカミノルタ QOL ソリューションズ 株式会社	HitomeQ ケアサポート	見守り・コミュニケーション
9	パラマウントベッド株式会社	眠り CONNECT 眠り SCAN 眠り SCAN eye タイムスタディアプリ「とき KANRI」 サニタリー利用記録システム(トイレセンサー)	
10	株式会社最中屋	ハカルト	介護業務支援
11	ND ソフトウェア株式会社	「ほのぼの」シリーズ	
12	アイコム株式会社※1	インカム	
13	セントワークス株式会社 ※2	介護保険請求ソフト SuisuiRemon	
14	株式会社 Moff※2	モフトレ	機能訓練支援
15	TANOTECH 株式会社※1	モーショントレーニングツール TANO	
16	アーバン警備保障株式会社 ※1	iSUMO3	認知症生活支援・認知症ケア支援
17	PLIMES 株式会社 ※2	ウェアラブル嚥下計 / 摂食嚥下 モニタリングサービス「GOKURI」	食事・栄養管理支援

※1 大阪会場のみ出展

※2 東京会場のみ出展

介護現場における 生産性向上推進フォーラム

対面・WEB形式

大阪
3/12
水

東京
3/18
火



本フォーラムは、事業所の職場環境の改善、職員の定着・確保、ケアの質の向上等を図るために、介護現場における生産性向上について、基本的な考え方や事業所・自治体の取組を知りたい、国の動向を知りたい方に特におすすめです！

開催概要

介護現場における生産性向上の取組を更に普及し、生産性向上の取組に対する気運を高める目的で、全国2か所でフォーラムを開催いたします。

本フォーラムでは、生産性向上の取組を実施している介護サービス事業所による講演及び報告を中心として、自治体による生産性向上の取組に対する支援事業の報告や、生産性向上の取組を実施するためのポイント解説、また、介護ロボット・ICTの紹介を行います。

なお、本フォーラムは全て会場とWebのハイブリッド形式で開催いたします。

開催日程・場所

大阪会場

2025.3.12 (水) **コングレコンベンションセンター**
13:00～17:30
大阪府大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪 北館 B2F

定員 会場 **300名**
Web **3,000名**

申込期限 2025 **3.7 (金)**

東京会場

2025.3.18 (水) **ベルサール半蔵門**
13:00～17:30
東京都千代田区麹町1-6-4
住友不動産半蔵門駅前ビル2F

定員 会場 **300名**
Web **3,000名**

申込期限 2025 **3.14 (金)**

※ 定員数に達した場合は申込期限を待たずに締め切らせていただく場合がございますので、お早めにお申込みください。

プログラム

- 1 開会挨拶
- 2 厚生労働省による施策動向の紹介
- 3 生産性向上の取組の考え方とポイント
- 4 介護テクノロジー開発企業による機器紹介
- 5 「介護職員の働きやすい環境づくり内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰」
受賞事業所による取組報告
- 6 ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取組事業所の発表
- 7 パネルディスカッション
- 8 介護テクノロジー開発企業による機器紹介
- 9 都道府県等の取組支援状況報告
- 10 事務連絡
- 11 閉会

※予告なくプログラムが変更となる場合がございます。予めご了承ください。



参加方法

申込は公式サイト/申込フォームにて

公式サイト



[https://kaigo-seisansei.com/
forum2024/](https://kaigo-seisansei.com/forum2024/)

申込フォーム



[https://biz.nikkan.co.jp/form/
ntt_forum/](https://biz.nikkan.co.jp/form/ntt_forum/)

- 個人情報の利用目的：ご登録いただいた情報は、本フォーラムに関するご案内・ご連絡、本フォーラムの参加登録、本フォーラムに関するアンケートのご依頼、アンケート結果から統計資料の作成、関連事業のご案内のために利用いたします。
- 個人情報の取扱いについて：ご登録いただいた情報は厚生労働省の個人情報保護方針に従い取扱いします。
厚生労働省個人情報保護方針 (<https://www.mhlw.go.jp/kojinjouhouhogo/index.html>)
- 個人情報の取扱いの委託について：本事業は株式会社NTTデータ経営研究所に委託しており、本フォーラムの事務局は株式会社NTTデータ経営研究所の指揮のもと、運営を株式会社日刊工新聞社に委託しています。委託先は個人情報保護の観点から選定し、秘密保持の契約を交わしております。